

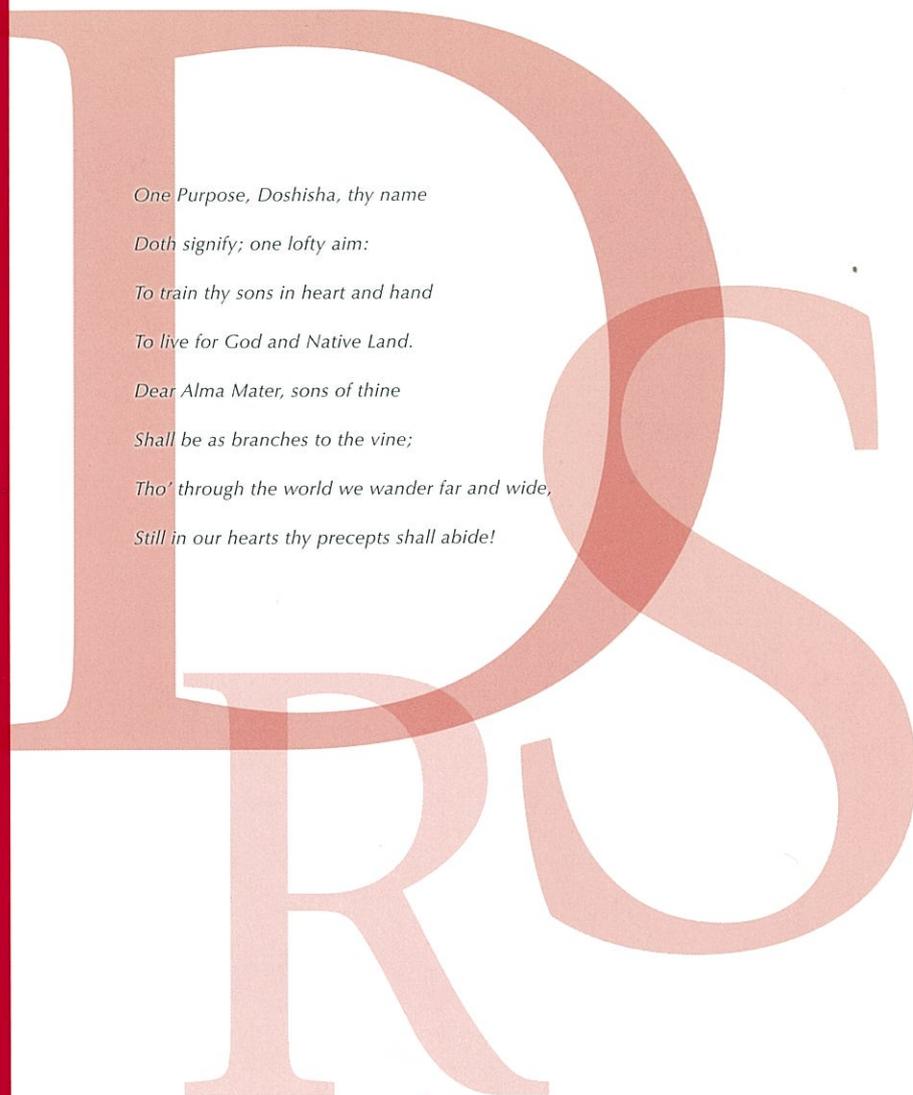
学校法人 同志社
事業報告書
2 0 1 2

同志社の進むべき道
——
新たな飛躍に向かって！

The Doshisha Social Responsibility Report 2012



学校法人 同志社
<http://www.doshisha.ed.jp/>



One Purpose, Doshisha, thy name

Doth signify; one lofty aim:

To train thy sons in heart and hand

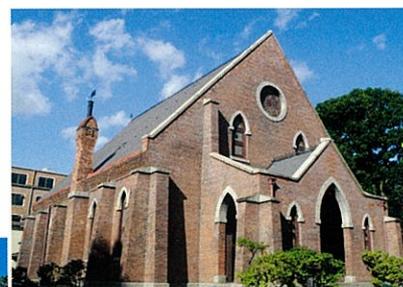
To live for God and Native Land.

Dear Alma Mater, sons of thine

Shall be as branches to the vine;

Tho' through the world we wander far and wide,

Still in our hearts thy precepts shall abide!



学校法人同志社は現在、約4万2,000名の学生・生徒・児童・園児が学ぶ「一大総合学園」に成長し、新たな飛躍に向かって進化を続けています。1875年の創立以来、多くの困難を乗り越えて教育・研究活動を続けてこられたのは、保護者や卒業生をはじめ、地域や行政機関、企業、一般市民の方々からの温かいご支援・ご指導があったからこそと、感謝しております。

その学校法人同志社の歴史に、新たな1ページが加えられました。同志社大学では、文系学部の今出川統合移転が完了し、今出川校地では文系学部の教育が、京田辺校地では理工系と文理融合学部の教育が完結する環境が整いました。同志社女子大学でも、今出川校地の大規模な整備計画が動き始めました。

2012年11月29日に創立137周年を迎えた学校法人同志社は今後も教育・研究に関する改革を押し進め、健全な学校法人運営を維持するため、すべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様に対して、情報公開を徹底してまいります。

本報告書によって、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが、より一層促進されることを心より願っております。

2013年5月25日
学校法人 同志社

本報告書の対象範囲
同志社法人部、ならびに幼稚園から大学までの各校。数値・金額にはそれぞれ対象範囲を付記しています。

本報告書の対象期間
2012年4月1日～2013年3月31日
(一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています。)

学校法人 同志社
事業報告書 2012

2013年5月25日発行
発行：学校法人 同志社
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
URL <http://www.doshisha.ed.jp/>

無断転載を禁止します。
All Rights Reserved.
Printed in Japan ©The Doshisha
The Doshisha Social Responsibility Report 2012

お問い合わせは
学校法人同志社 法人部法人事務室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-3006
FAX 075-251-4980
E-MAIL ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

Contents

目次

教育理念	3
法人内各学校	3
■ 大谷 實 総長からのメッセージ	4
21世紀の飛躍をめざし強化の軸足を ハード面からソフト面に移します	
■ 水谷 誠 理事長からのメッセージ	5
財政基盤をさらに安定させて、 「建学の精神」の涵養を押し進めます	
■ 同志社大学長インタビュー	6
グッド・ガバナンスを確立し、 満足度日本一の総合大学をめざします 同志社大学 村田晃嗣学長	
■ 同志社女子大学長インタビュー	7
同志社女子教育の原点に帰り、 社会に貢献する良心に満ちた女性を育てます 同志社女子大学 加賀裕郎学長	
■ 「八重の桜」関連プロジェクト	8
東日本大震災からの復興をめざす東北・福島を地元と連携して応援	
■ ハイライト① 教育	10
新学部開設や人材育成などで「国際主義」を実質化 リベラル・アーツ教育に基づいたキャリア教育を推進	
■ ハイライト② 研究	11
働きやすいオフィス照明や環境に優しい二次電池など 革新的な研究成果で社会に大きく貢献	
■ ハイライト③ 在校生の保護者、受験生、卒業生への取り組み	12
風間浦村との交流20周年、各地で交流会も開催	
■ ハイライト④ 地域社会への取り組み	12
精華町と包括連携協定を締結、地域との連携を強化	
■ ハイライト⑤ 国際連携への取り組み	12
アフガニスタン和解の打開策を国際会議で提示	
■ ハイライト⑥ 環境保護に関する取り組み	13
「世界学生環境サミット」や「COP18」で真剣な議論	
■ ハイライト⑦ 寄付事業に関する取り組み	13
新寄付教育プロジェクト、新寄付講座が始動	
■ 事業の概要	14
同志社大学	14
同志社女子大学	18
同志社中学校・高等学校	20
同志社香里中学校・高等学校	21
同志社女子中学校・高等学校	22
同志社国際中学校・高等学校	23
同志社小学校	24
同志社国際学院	25
同志社幼稚園	26
■ 【特集1】 教学体制の再編	27
新しい学びの形を追究する新校舎が今出川校地に完成	
■ 【特集2】 グラフで見る同志社	28
■ 財務の概要	30
概況	30
資金収支計算書	30
消費収支計算書	32
事業別決算	34
貸借対照表	34
財務比率	36
学校別の状況	37
2013年度の事業計画	38
■ 法人の概要	39
理事、監事、評議員、沿革	

教育理念

同志社は、1875(明治8)年、新島襄によって創立された、わが国有数のキリスト教主義の学園です。創立当時の生徒はわずか8名でしたが、現在は同志社大学、同志社女子大学のほか、4つの高等学校、4つの中学校、小学校、国際学院と幼稚園を含む総合学園となり、学生・生徒・児童・園児は約4万2,000名、教職員は1,900名を超えています。また30万名を超える卒業生は、経済・政治・宗教・教育・社会事業など多方面で社会のために活躍しています。

新島は同志社の教育目的を1888(明治21)年、全国に発表した「同志社大

学設立の旨意」の中で、次のように述べています。

「(同志社設立の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず(中略)、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂の良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき」^(*)

新島は、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」の調和ある教育の実践を理想としていました。教育を通して生徒・学生が、^{できとうふ}型にはまらず独立心と才能あふれる^き倜儻不羈なる人物として、「自治自立の人民」「一国の良

心」となることを究極の目的としました。

同志社では新島の建学の精神を受け継ぎ、キリスト教主義、自由主義、国際主義を教育の重要な柱としています。また、生徒・学生の個性や彼らの自発性を尊重し、全人教育を通して広い視野から現状分析と将来展望を持って行動することのできる人間、自らの良心に従って生きる人間、新島の言う「自治自立の人民」の育成をめざします。グローバル化が進む21世紀では、ますます新島の建学の理念が、そして同志社教育が重要性を増すことでしょう。

(*)「同志社大学設立の旨意」(新島襄全集)より

法人内各学校



(2013年4月現在)



おのやみのる
大谷 實
総長からのメッセージ

*Message from
Chancellor*

21世紀の飛躍をめざし強化の軸足を ハード面からソフト面に移します

——2013年2月23日の定例理事会において、総長に再任されました。

01年4月に総長に就任してからの12年間は、創立200年目に教育事業の完成をめざす学校法人同志社にとって、大変重要な時期でした。12年度は同志社大学の今出川校地に待望の「良心館」と「志高館」が完成し、文系学部の学生が13年4月から、4年間同じキャンパスで学べる環境が整いました。また13年4月には「グローバル地域文化学部」が開設され、14学部体制になりました。

同志社女子大学は5学部体制となり、わが国有数の総合女子大学に成長しました。両大学以外の法人内各学校も、教育環境を向上させるためのキャンパス整備を積極的に行っています。時代の要請や社会のニーズに応えるためのハード面の改革は、完成しつつあると言ってよいと思います。

——今後、学校法人同志社をさらに魅力のある学園にするには、何が必要になるのでしょうか。

改めて言うまでもなく、私学を取り巻く競争環境は、極めて厳しい状況にあります。特に少子化は、深刻な問題

です。24年には18歳人口が現在より約10万人も減少し、約109万人になると言われています。特色のない私学は、淘汰されるでしょう。

こうした状況で、学校法人同志社が今後も魅力ある学園であり続けるためには、私学のアイデンティティを前面に押し出した教育理念、すなわちソフト面のより一層の強化が必要になります。これからは強化の軸を、ハード面からソフト面に変えていきます。

幸いにして学校法人同志社には、キリスト教主義、自由主義、国際主義を柱とした「良心教育」の伝統があります。この良心教育を同志社ブランドとしてより一層鮮明に打ち出し、社会にアピールしていきます。

戦後教育において最も疎かにされてきたのは心の教育、精神の涵養、つまり「徳育」ではないかと考えています。学問を単なる真理の探究として絶対視する姿勢を改め、徳育を推進する必要があるのではないのでしょうか。

ただし徳育を推進するには、何らかの精神的な基盤が必要です。そこで大きな柱になるのが、同志社建学の精神である「良心教育」なのです。今後、良

心教育の中身を現代的に問い直し、徳育を基本とする教学によって、モラルが高く、高潔な人格を有する優れた人物を世の中に送り出すことが、私たちの使命と確信しています。

——幼稚園から大学院までの一貫教育体制も、同志社の大きな強みです。

学校法人同志社は2つの大学、4つの高等学校、4つの中学校、2つの小学校、幼稚園、各種学校のインターナショナル・スクールという14の学校を擁し、約4万2,000名の学生、生徒、児童、園児が学んでいます。学校法人同志社の強みである「一貫教育体制」のさらなる充実にも、総長として全力で取り組みます。良心的な行動や生き方が彼らの血となり肉となるように、成長度合いや発展段階に応じた良心教育を実践してまいります。

また12年11月には、法人理事会で「医科大学(医学部)設置基本計画検討チーム」が編成されました。医学校の設立は同志社創立者・新島襄の“宿願”でもあります。新島が描いた夢の実現に向けて、財政面・教学面などのあらゆる角度から、設立の可能性を慎重に検討する所存です。



みず たに まこと
水谷 誠
理事長からのメッセージ

*Message from
Chairperson*

財政基盤をさらに安定させて、 「建学の精神」の涵養を推し進めます

——新理事長としての抱負をお聞かせください。

同志社大学では教育効果をさらに向上させるために、2013年度からすべての学部が、今出川または京田辺の校地で一貫して学ぶことができる新しい教育体制に移行しました。“教学新体制元年”とも言うべき節目の年に理事長に就任し、思いを新たにしている次第です。

学校法人同志社は、「キリスト教主義」の学園です。同志社創立者の新島襄は、キリスト教を土台にした「良心教育」を唱え、良心を手腕に運用する人物の養成をめざしました。そして、この建学の精神によって同志社は137年の歴史と伝統を築き、「地の塩」「世の光」となる多くの人物を世に送り出してきました。今後、今出川・京田辺それぞれの校地の持つ特色をさらに充実・発展させると共に、両校地の学生や教員などの相互交流を促進し、同じ志を持つ教育・研究共同体として、21世紀に飛翔してまいる所存です。

——大河ドラマ「八重の桜」の放送が始まり、同志社への関心や期待が高まっています。

「八重の桜」の主人公の新島八重は、夫の襄が1876年に開設した女子塾（同志社女子教育の源）に教師として参画しています。自分の生き方をはっきりと打ち出し、自らの力で人生を切り開き、幕末から昭和までの激動の時代を生き抜きました。

現在の日本では、長い閉塞状況から抜け出す明るい兆しも見えています。こうした時代の転換期に、混乱の中にあっても思いを貫いて生きた八重を主人公にしたドラマが放送されることは、意義深いものがあります。八重の生き方が、現代人の礎となり、光となることを期待しています。

——教育・研究面の充実には、財政の安定が欠かせません。

同志社は2013年も格付投資情報センター(R&I)から9年連続で、「AA+(プラス)、方向は安定的」という格付維持の決定を受けました。こうした健全で安定した財務基盤が、同志社の教育・研究活動を支えています。

13年4月には、同志社大学に「グローバル地域文化学部」が開設され、14学部体制となりました。グローバル社会で活躍できる人材を「留学型」と「国内

型」で育成する同志社大学の人材育成の取り組みは、12年度の文部科学省のグローバル人材育成推進事業「グローバル30 Plus」に採択されました。建学の精神を継承するグローバル・リーダーを育てる「グローバル・リソース・マネジメント」(GRM)も、12年度の文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択されています。

同志社女子大学では、17年度までの大規模な今出川キャンパスの整備計画が動き始めました。同志社女子中学校・高等学校でも、16年度までのキャンパス整備計画が具体化します。同志社国際中学校・高等学校では、同志社国際学院初等部の卒業生を15年度から受け入れるために、教育環境を向上させるハード面の整備が進められています。ハード面で与えられるこれらの充実した環境を活かしつつ、ソフト面で「良心的に行動する人物の育成」という建学の精神の涵養にさらに努めてまいります。こうした重要な事業を確実に実行に移すために、収入構造の多様化などに取り組み、財政基盤のより一層の安定化に努めてまいります。

(神学館 礼拝堂にて)

グッド・ガバナンスを確立し、 満足度日本一の総合大学をめざします



——第32代学長に選任されました。

文系学部が2013年4月に今出川校地に統合移転したことで、文系学部の教育が今出川校地で、理工系と文理融合学部の教育が京田辺校地で完結する環境が整いました。同志社大学は今、大きな転機を迎えています。

新学長として、良心を手腕に運用し「地の塩」「世の光」となることができる人物を育てるとともに、人材不足が叫ばれる今だからこそ、社会的に有為な人材を育成していきます。

——新学長として、4つの長期目標を提案されています。

25年の「創立150周年」に向けて、「総合大学にふさわしい、量的拡大から質的向上へのより一層の転換」、「京都という地の利やキリスト教主義といった、同志社大学が固有に持つ特色の強化」、「全学レベルで取り組む施策と、学部・研究科レベルで取り組む課題の明確化」、「対外的・国際的な発信力の強化」という目標を提案しています。

例えば、2つ目の「同志社大学固有の特色の強化」では、京都に拠点を置く伝統芸能・文化との教育・研究両面でのコラボレーションなど、京都以外では実現できない取り組みを、これまで以上に推進することが考えられます。他の大学と協力して、京都を国際的な

日本研究のハブにすることもできるはずです。

現在、全国の大学生の約4割が首都圏で学んでいます。こうした極端な“首都集中”の状況においては、伝統と革新が共存する京都という首都圏以外の視点から、社会を考察する必要があると考えています。

4つ目の「対外的・国際的な発信力の強化」では、世界各国の日本研究者との接点を強化して、同志社大学の教育・研究への理解者を増やしていきます。そのため、国内外に情報を発信する広報活動や各種シンポジウム、国際会議などを積極的に展開します。

長期目標を達成するためには、まず、「今出川・京田辺両校地の有機的連携の具体化」、「グッド・ガバナンスの確立」という2つの課題に、最優先で取り組みます。

同志社大学が「志を同じくする学園」であり続けるには、今出川・京田辺両校地の強固な連携が不可欠です。特に、学生数が減少する京田辺校地の活性化は喫緊の課題です。そこで今出川・京田辺両校地を通じて免許や資格が取れる科目の充実や、文理融合の研究環境による産学官共同研究プロジェクトの推進などに取り組みます。

——同志社大学を、どのような学園に

したいとお考えですか。

「夢を紡げる大学」でありたいと願い、4つのビジョンを描いています。1つ目は、“オンリーワン”の国際化を進める大学です。建学の精神の1つである「国際主義」に基づいて独自の国際化戦略を展開し、他大学の国際化のモデルになりたいと思います。

2つ目は、学生や卒業生、教職員などにとって満足度日本一の大学です。すべての関係者が、「同志社大学ここにあり」と誇れるようにします。同志社の徽章である三つ葉のクローバーは、「知」「徳」「体」の三位一体をめざす教育理念を表していますが、同時に「学生」「教職員」「校友」が調和している姿に見立てることができます。

3つ目は、日本一研究がしやすい大学です。「それぞれの先生にとって、いかに研究しやすいか」という視点に立って、文系・理系各学部などの事情やニーズに合った研究支援体制を構築したいと思います。4つ目がガバナンス日本一の大学です。教育と研究をより一層進化させるためにも、意思決定の過程を透明にして、熟議と効率のバランスをとることで、すべての教職員にとって「働きがいがある」、そして「働きやすい」環境を作っていきます。

(良心館ラーニング・コモンズにて)

同志社女子教育の原点に帰り、 社会に貢献する良心に満ちた女性を育てます



同志社女子大学
かがひろお
加賀 裕郎 学長

——第14代学長に再任されました。

建学から1世紀以上が過ぎ、同志社女子大学が果たすべき役割や、学園を取り巻く環境は大きく変化しています。学長1期目の3年間は同志社女子教育の原点に帰り、建学以来受け継いできた「キリスト教主義」「国際主義」「リベラル・アーツ」という教育理念を継承するとともに、「Mission」(同志社女子大学が育む女性像)に即して、社会の変化に対応し、どのような女性を育てるかという観点から、いくつかの改革を進めてきました。

1期目の取り組みは、形を見せ始めています。2期目はこれまで進めてきた改革を着実に実行に移すと同時に、建学の精神に基づき、教育・研究のさらなる高度化に努めます。

——2期目の重要なテーマは、「女子大学の将来構想」の具体化です。

2012年度から16年度までの5年間の将来構想では、「リベラル・アーツ」「社会」「女性・女子大学」という新たな3つのキーワードを掲げました。そして、これらのキーワードを基に、5年間で取り組むべき同志社女子大学の「強み」につなげる方針と、「強み」を支える方策を定めました。

「強み」につなげる方針は、「同志社女子大学型知性の構築」「『志』の実現

を支援する体制の構築」「21世紀を生きる女性を育む『ホーム』を作る」の3つ。「強み」を支える方策は、「安定した財政基盤の確保」「大学の組織力の強化」「教職員の意識改革」の3つです。——現在、どのような取り組みが進んでいますか。

新たな教学組織として12年4月に「大学院 薬学研究科」を、13年4月には「音楽専攻科」を開設しました。さらに、新しい学部への設置に向けた検討も進めています。

最も強調したいのは、「いかにして社会に貢献するか」という観点から、リベラル・アーツ教育のあり方を見直したことです。言い換えると、リベラル・アーツ教育とキャリア教育(職業教育)の密接な連携です。専門分野の知識や技術を確実に習得させるとともに、専門分野以外の学問を学ばせることで、豊かな社会づくりに貢献できる女性を育てたいと思います。

そのため初年次教育の改善や、教員の教育能力・資質の向上に向けた組織的な取り組みなどに力を入れています。教員の能力・資質向上の面では、実学を教える教員だけでなく、どの学科の教員であっても、「社会にどのように役立つか」というキャリア教育の視点を持つ必要があります。

——社会とのつながりも、より一層重要になっています。

これからの大学は学生の卒業後も視野に入れ、社会的・職業的自立に向けた指導に取り組まなければなりません。そこで、学生が大学生活の中で得たものが卒業後に生きていく上での糧となるような、社会との関わりを視野に入れた“人のために生きる”教育を行っています。そして、本学が女子総合大学であることの意義をもう一度確認し、私たちにしかできない教育、女性に必要な教育の確立をめざしています。現在構想中の女性教育センター(仮称)やボランティア活動センター(同)の設立は、こうした取り組みの一環です。

女性の生き方は多様化しています。そこで、大学のカリキュラムや課外活動などを通じて学生に、「それぞれのライフステージにおいてどのように生きていくのか」を考えることができる環境や、「こんな女性になりたい」という理想の女性像に近づくことができる環境を提供します。

13年2月には、今出川キャンパス整備計画を公表しました。安心・安全で快適なキャンパスの実現はもとより、自発的に学習できる環境づくりも視野に入れて、整備を進めていきます。

(友和館ヒバードホールにて)

「八重の桜」関連プロジェクト

東日本大震災からの復興をめざす 東北・福島を地元と連携して応援



同社キャラクター「八重さん」

大河ドラマ「八重の桜」の放送が、2013年1月6日に始まりました。会津出身で、同志社創立者の新島襄を支えた妻・新島八重を主人公にしたドラマです。困難に屈せず、凜とした八重の生き方に、東日本大震災からの復興をめざす被災地への力強いメッセージが込められています。「八重の桜」制作統括の内藤愼介エグゼクティブ・プロデューサーは、次のように述べています。

「幕末の激動の中で、それまで信じていたものがすべて崩れ去った八重。しかし、生きることから逃げなかった八重には、人間としての強さがあります。それは、東

日本大震災を経ながらも前に進もうとする、現在の日本の姿と重なるものがあります」。

「八重の桜」には、もう1つの狙いがあります。それは、東北・福島を元気にする“祭”を起こすことです。「実際に東北を訪れる。あるいは、ただ東北を思うだけでもいい。このドラマが、見る人々にとって何かのきっかけになればという願いを込めています」。

学校法人同志社は、東日本大震災の復興支援を念頭に置いた、「八重の桜」のこうした制作意図に賛同し、番組制作のための取材対応や資料提供など、全面的な

協力を行っています。また、八重の出身地である福島県や会津若松市をはじめ、京都府などと連携・協力し、様々なプロジェクト（表）を通じて、東日本大震災からの復興をめざす東北・福島を応援しています。

福島県や会津若松市と連携協定 関連イベントなどに参加

その一環として、学校法人同志社は12年3月21日に福島県会津若松市と、13年1月29日に福島県と、それぞれ包括連携協定を締結しました。会津出身の山本覚馬・八重兄妹が同志社創立に深く関わったことにちなみ、相互の発展を図りながら、地域の発展や東日本大震災からの復興に寄与するのが目的です。

福島県との連携協定の締結式で学校法人同志社は、福島県に対する支援活動の一環として立ち上げた「同志社東日本大震災復興協力金募金」から、第1回義援金（250万円：12年6月～12月分）を贈呈しました。

この協定締結式は、東京・日本橋にある「ブリッジにいがた」で行われました。福島県と京都府の連携イベント「新島八重が結ぶ縁〜こらんしょ福島 おこしやす京都 魅力満載フェア」の会場となった場所です。八重のゆかりの地である福島と京都の魅力を紹介するこのイベントでは、福島県や京都府の観光情報を掲載した様々なパンフレットなどが配布され、地酒やお菓子などの物産品が販売されました。学校法人同志社もこのイベントを後援し、株式会社同志社エンタープライズが「新島八重オリジナルグッズ」の販売などを行いました（写真1）。

また、連携協定に基づく事業の1つとして学校法人同志社は、福島県や会津若松市などの協力の下、第42回 Neesima Room 企画展「会津と八重―八重を育てた故郷―」を、13年3月26日から開催してい

表 主な「八重の桜」関連プロジェクト

法人・大学関連
・公式サイトで特設ページ「新島八重と同志社」開設（2011年8月）
・大河ドラマ「八重の桜」放送記念ブックレット「新島八重と同志社」を作成（2012年5月）
・新島八重が結ぶ縁〜こらんしょ福島 おこしやす京都 魅力満載フェア後援（2012年7月3日～5日、2013年1月29日～30日：ブリッジにいがた〔東京・日本橋〕、2013年2月4日：丸ビル 1F MARU CUBE〔東京・丸の内〕）
・福島まごころフェスタ参加（2012年8月4日～5日：東京国際フォーラム展示室）
・「新島八重の生涯と戊辰戦争展」協力（2012年9月14日～11月4日：二本松市、白河市）
・若松城天守閣郷土博物館企画展「京都守護職拝命150年と新島八重」協力（2012年9月14日～11月4日：会津若松市）
・福島県の幟を立てて、全国高校駅伝（2012年12月23日）、全国都道府県対抗女子駅伝（2013年1月13日）を応援
・げんき咲かそう！ ふくしま大交流フェア参加（2012年12月24日：東京国際フォーラム）
・ハンサムウーマン八重と会津博 大河ドラマ館協力（2013年1月12日～2014年1月14日：会津若松市）
・関西・ふくしま大学生交流事業（2013年1月19日～3月17日）に、同志社大学から7名、同志社女子大学から2名が参加
・新島八重子召天80年記念 激動の時代にハンサムに生きる「新島襄・八重子展」協力（2013年1月22日～12月23日：旧碓氷郡役所展示室）
・学校法人同志社、福島県と包括連携協定を締結（2013年1月29日）
・大河ドラマ特別展「八重の桜」協力（2013年3月12日～5月6日：東京江戸博物館）
・さくらさく、ふくしま。関西ふくしま交流フェア参加（2013年3月16日～17日：京都駅前広場）
・会津幕末検定協力（2013年3月17日実施）
・京都府庁旧本館 春の一般公開「観桜祭」協力（2013年3月20日～4月7日）
・第42回 Neesima Room 企画展「会津と八重―八重を育てた故郷―」開催（2013年3月26日～6月30日）
・新島旧邸 特別公開（2012年9月～2013年12月）
・新島八重の写真提供（新聞、雑誌、テレビなど）
女子大学関連
・新島八重研究会発足
・公式サイトで特設ページ「新島八重×同志社女子大学」開設
・食物研究会と京都ブライTONホテルのコラボ企画2012「結〜むすぶ〜八重が繋ぐ京都と福島〜」オリジナルクッキーを企画・販売
・人間生活学科学学生が新島八重の洋装を再現。福島県に寄贈
・食物栄養科学科の学生が企画した八重さんの箸箱（じょうよう）まんじゅう「やえごころ」が商品化
・新島八重研究会著「同志社の母 新島八重」発行（2012年10月24日）
・第18回史料室企画展「新島八重と同志社女学校」（2012年11月23日～2014年3月31日）

ます(会期は6月30日まで)。会津若松市の協力により、「会津」の文化を今に伝える“至宝”が展示されています。

八重の洋装を学生が再現 多くのイベントに資料提供

同志社大学と同志社女子大学も、東北・福島復興を応援する多くの活動を行いました。

例えば、12年12月24日に東京国際フォーラム(東京・有楽町)で開催された「げんき咲かそう! ふくしま大交流フェア」に、同志社大学が参加。八重に関連したパネルを展示したほか、「新島八重と同志社」をはじめとする資料を配布しました。さらに、同志社社史資料センターの露口卓也所長と小枝弘和研究員が、「八重さんってどんな人?」をテーマに5回のギャラリートークを行い、各回とも満席の盛況でした(写真2)。

このほか、「さくらさく、ふくしま。関西ふくしま交流フェア」(13年3月16日~17日、京都駅前広場で開催)や、「ハンサムウーマン八重と会津博 大河ドラマ館」(13年1月12日~14年1月14日、会津若松市で開催)などのイベントにも、同志社大学は資料提供などで協力しました。

同志社女子大学では、生活科学部人間生活学科の学生が八重の洋装を再現し、12年9月6日に福島県に寄贈しました(写真3)。制作を担当したのは、清水久美子教授のゼミで服飾文化を学ぶ3・4年生の15名です。世界一軽いシルクとして知られる福島県の「川俣シルク」を生地に使用し、八重が身につけていた1880年代後半の洋装を時代考証に基づいて、細部にわたって再現しました。

八重の洋装は2着制作し、福島県に寄贈した1着は、福島県二本松市の二本松市歴史資料館で行われた「新島八重の生涯と戊辰戦争展」(会期12年9月14日~11月4日)と、福島県立博物館(会津若松市)で開催された2013年大河ドラマ特別展「八重の桜」プレイベントで、13年2月9日から5月6日まで展示されました。もう1着は、「同志社女子大学史料室 第18回企画展『新島八重と同志社女学校』」(会期12年11月23日~14年3月31日)で展示されています。



写真1 新島八重のオリジナルグッズ



写真2 盛況だったギャラリートーク

容保桜の苗木を植樹 駅伝で福島チームを応援

京都府庁(京都市上京区)の敷地内には、「容保桜」(かたもりざくら)という桜の木があります。大島桜と山桜の特徴を併せ持つ珍しい品種です。かつて京都守護職の上屋敷が府庁の敷地内にあったことから、その任に当たった会津藩主・松平容保(まつだいら かたもり)の名を継承し、容保桜と命名されました。

13年2月26日には、京都府と桜守・第16代佐野藤右衛門氏のご厚意により、容保桜の実生の苗木を寄贈していただき、同志社大学今出川キャンパスに植樹しました(写真4)。この木が、京都府・福島県・同志社の3者がさらに密接に連携をとっていく1つのシンボルとなるように、東日本大震災復興支援への「思い」や、3者がともに発展することへの「願い」を込めて、大きく育ててまいります。

また、その容保桜がある京都府庁の旧本館で、毎年開催されている「春の一般公開」。今年から名称を「京都府庁旧本館観桜祭」に変更し、13年3月20日から4月7日まで行われました。八重の桜の放送にちなみ、今回は「京都 八重の桜特別イベント」が開催されました。このイベントに同志社大学が協力し、八重のパネル展示などが行われました。

一方、京都の冬の風物詩といえば駅伝です。12年12月23日には「全国高校駅



写真3 新島八重の洋装を福島県に寄贈



写真4 容保桜の植樹式

伝」(男子は第63回、女子は第24回)が、13年1月13日には「第31回全国都道府県対抗女子駅伝」が、それぞれ都大路を舞台にして開催されました。この2つの駅伝で同志社大学は、今出川校地にある志高館の柵に幟(のぼり)を立てて、福島県のチームを応援しました。八重の桜の放送を契機に交流が深まっている福島県に対して、「東日本大震災からの復興を応援する」という願いを込めました。

このほか、同志社女子大学の新島八重研究会が12年10月24日に、書籍『同志社の母 新島八重』を発行しました。在学生や教職員などの関係者に配付するとともに、近畿圏の主な公共図書館などに寄贈しました。

この書籍には八重の生涯に加えて、「女学校創設期の八重先生」「京都で蘇った兄と妹」「『ハンサムウーマン』再考」「明治時代のガイドブックで紹介される同志社」など、執筆者の専門性を生かしたユニークなコラムが数多く掲載されているほか、八重にまつわる写真やゆかりの地なども紹介されています。

東日本大震災の発生から2年が過ぎました。被災地の方々が震災前の生活を完全に取り戻すまでには、まだ長い時間がかかりそうです。学校法人同志社は今後も、東北・福島の方々と人的・知的・学術的な交流を深めながら、その復興に協力していきます。

ハイライト 社会の要請に応える取り組み

教育・研究、保護者・地域社会・国際連携・環境への取り組み、寄付事業

ハイライト ① 教育

新学部開設や人材育成などで「国際主義」を実質化 リベラル・アーツ教育に基づいたキャリア教育を推進

「国際主義」に基づいたグローバル化を推進する同志社大学は、14番目の学部となる「グローバル地域文化学部」を2013年4月、今出川校地（烏丸キャンパス）に開設しました。

世界で活躍できる人材を育成

グローバル地域文化学部とは、地域の文化・歴史・社会に関する学際的な知識をベースにして、グローバルな視点から現代の世界が抱える様々な問題を研究する学問です。13年1月に発生した「アルジェリア人質拘束事件」など、現代世界の紛争や問題の多くは、文化や人種、経済環境が異なることなどによる地域間の摩擦が原因になっています。地域の文化や課題に対する深い理解がないと、こうした紛争や問題は解決できません。

そこで、グローバル地域文化学部では、ヨーロッパとアジア・太平洋、アメリカという3コースのいずれかに学生が所属し、各地域の言語を学びながら、自ら見定めた問題を解決する方法を考えます。こうした4年間の学びや研究を通じて、グローバルな視点から国際社会で活躍する人材を育てます。

グローバル30 plus に採択

グローバル地域文化学部の開設に先立ち、同志社大学のグローバル人材育成事業「良心と進取の気性に溢れる同志社グローバル人材育成のための実践的取組」が、12年度の文部科学省「グローバル人材育成推進事業（グローバル30 plus）」のタイプA（全学推進型）に採択されました。

グローバル30 plusに採択された今回の事業の大きな特長は、人材育成のスキームを「留学型」と「国内型」という2つの教育プログラムで構成したこと。このうち留学型は学生を海外に派遣するプログラムで、学術交流指定校への交換留学や夏休み中の外国語研修などを行います。国内型は、海外留学をせずに、実践的な外国語運用能力を学生に身につけさせるプログラムになります。グローバル人材として求められる能力としては、「TOEFL®-iBTで79点以上」という数値目標を設定しました。これはTOEFL®-PBTで550点、TOEIC®で730点に相当します。

事業の最終年度である16年度末までに、この基準を満たす国内型の学生

を年間1,200名（全卒業者の約20%）、留学型の学生を年間1,800名（同約30%）にする目標を掲げています。国内型と留学型の合計（重複を除く）では、年間2,400名（同約40%）をめざしています。こうした高い

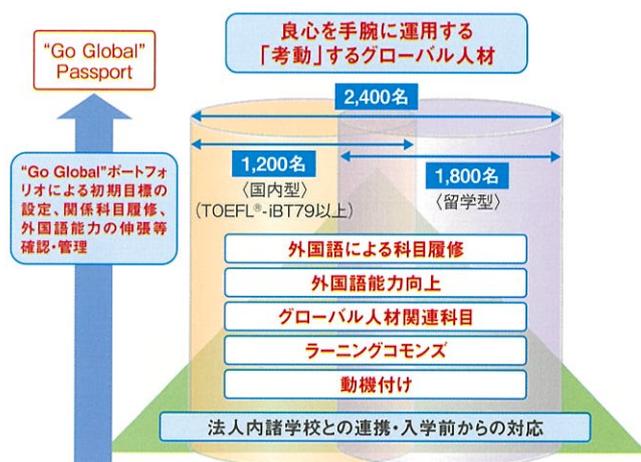
目標を達成するために留学型では、外国語研修プログラムや交換留学の充実に加え、各学部の専門分野に関する留学プログラムを構築するなど、留学目的や期間、時期を多様化させます。国内型では、学生に対して英語のみで授業が行われる国際教育インスティテュートや、アメリカの大学が本学で実施する授業の履修を促し、海外留学と遜色ないプログラムを提供していきます。

「DWCLA 10」が始動

同志社女子大学は「リベラル・アーツ教育」の理念の下、キャリア教育を推進するため、「DWCLA（Doshisha Women's College of Liberal Arts）10」に基づく教育プログラムを始動させました。学生がどの分野の学問を専攻する場合でも、また、卒業後にどの分野に進む場合でも、同志社女子大学の学生として卒業までに身につけてもらいたい10の基礎的・汎用的能力がDWCLA10です。

12年度からすべての授業科目のシラバスに、その科目の履修を通じて結果として身につけることが期待されるDWCLA10の能力を記載しています。教える側には授業方法の工夫を促し、学ぶ側には知識や技術の習得だけではなく、DWCLA10の大切さを理解してもらい、自らの将来を切り開く力を身につけてもらうことがねらいです。

また、全学共通科目に「キャリアのための自己表現演習」が設置されたほか、学科独自のカリキュラムにもキャリア科目が設置され、「リベラル・アーツ教育」に基づく同志社女子大学ならではのキャリア教育が大きく前進しました。



グローバル人材育成推進事業の概要

ハイライト ② 研究

働きやすいオフィス照明や環境に優しい二次電池など 革新的な研究成果で社会に大きく貢献

同志社大学と同志社女子大学は2012年度も、社会や時代の要請に応える革新的な研究成果を上げることができました。その一例が、同志社大学理工学部（インテリジェント情報工学科）の三木光範教授が開発した「知的照明システム」です。12年9月28日に東京国際フォーラム（東京・有楽町）で行われた「第10回産学官連携功労者表彰」（内閣府主催）で、環境大臣賞を受賞しました。

必要な光を必要な場所に届ける

三木教授が開発した知的照明システムは、オフィス内で一人ひとりの社員の活動に最も適した明るさや色の照明を提供できる“適光適所”のシステムです。人工知能を搭載した照明器具がネットワークでつながり、各デスクの上にある照度センサの値を基に、明るさや色を細かく調整できます。

大規模ビルでは、1万台以上の照明器具があり、明るさと色の組み合わせは数億通りを超えと言われています。これまで、必要な照明を必要な場所にピンポイントで届けることは不可能でしたが、三木教授のシステムはそれを可能にしました。事務作業には「明るく白い照明」、クリエイティブワークには「少し暗めで暖かい色の照明」など、働きやすい照明環境を実現します。しかもこのシステムは、最もエネルギー効

率の良い光を提供できるので、電力使用量とCO₂排出量の削減にも役立ちます。

三木教授のシステムは、既に三菱地所株式会社の協力を受けて、東京駅前にある新丸の内ビルディング10階の「エコツェリア」というオフィスに導入され、働きやすさと省エネを実現しています。さらに東京都内の5カ所でも実証実験が進んでおり、13年5月に竣工する東京駅近くのオフィスビルに実用化第1号として導入されます。

低炭素社会に貢献する二次電池

同志社大学理工学部（環境システム学科）の盛満正嗣教授が開発を進めている「水素/空気二次電池」も、これからの低炭素社会に貢献するものです。

水素/空気二次電池とは、負極に水素吸蔵合金、正極に空気極、電解質にアルカリ性水溶液を使う新しい二次電池（蓄電池）です。放電では水を生成し、充電では水を分解するという、水だけを活性物質とする二次電池です。高エネルギー密度と安全性を両立できる「次々世代の二次電池」として注目されています。

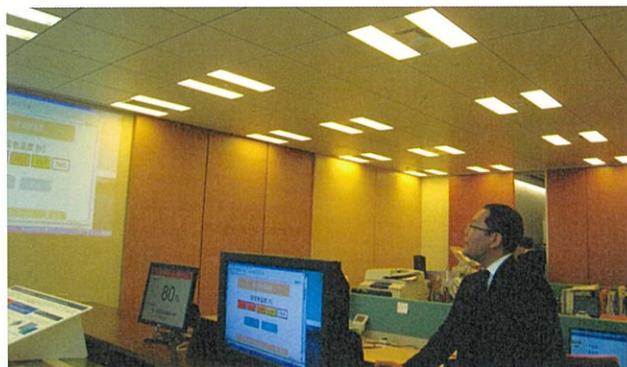
こうした盛満教授の開発は、科学技術振興機構（JST）の「戦略的創造研究推進事業・先端的低炭素化技術開発（ALCA）」の新規研究開発課題（12年度）に採択されました。電池・自動車・

材料の各分野のメーカーも支援グループとして参加し、電気自動車や再生可能エネルギーの貯蔵、分散型電源などへの応用に向けた研究開発を進めています。今後10年程度を目標に、実用レベルの電池性能（エネルギー密度：1500Wh/L以上、500Wh/kg）の達成をめざしています。

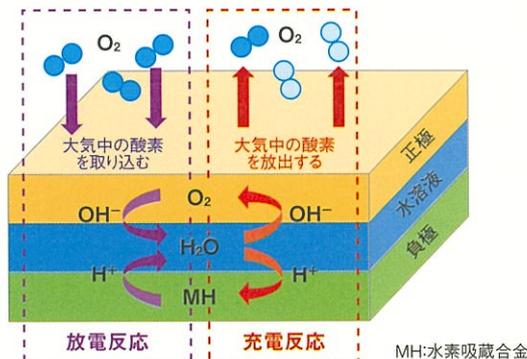
初期胚に栄養供給する機構を解明

同志社女子大学薬学部の和田戈虹教授と川村暢幸助教はバイオテクノロジーの分野で、革新的な成果を上げました。大阪大学の産業科学研究所と大学院医学系研究科、秋田大学大学院医学系研究科と共同で、哺乳類の初期発生胚（初期胚）に栄養を供給する機構を解明しました。

具体的には、マウスの初期胚を使って、初期胚が物質や栄養を得て増殖と分化が進行する際に、マイクロオートファジー（微小自食作用）という現象が起こり、その現象には「rab7」というタンパク質の機能（物質輸送を制御する機能）が必要であることを明らかにしました。これまで、初期胚への栄養供給や分化を制御する仕組みは明らかになっていませんでした。今回の共同研究の成果は、哺乳動物の母体内で受精から形態形成が起こる母子間相互作用において、新たな視点をもたらしたと評価されています。



LED知的照明システムを導入したオフィス「エコツェリア」



水素/空気二次電池の概要と電池反応の仕組み

風間浦村との交流20周年、各地で交流会も開催

学校法人同志社は2012年度も、学園の今を知ってもらうため、全国規模の学校説明会を数多く行いました。例えば、学校法人同志社と同志社大学は12年10月13日、「学校法人同志社・風間浦村交流20周年式典/同志社フェア in 風間浦」を、風間浦中学校（青森県下北郡）で開催しました。

風間浦村は、新島襄が脱国の地・函館に向かう途中に3日間寄港したゆかりの地です。92年に同志社との交流が始まり、12年に20周年を迎えたことから、第2回の同志社フェアと共同開催

しました。当日は、風間浦村と学校法人同志社の連携協力に関する包括協定を締結したほか、同志社大学神学部の本井康博教授による「下北半島と同志社一新島襄・八重をめぐって」と題した講演、大河ドラマ「八重の桜」の紹介などが行われました。

また、同志社女子大学は岡山・熊本・金沢・東京・名古屋の5カ所で、在学生保護者と卒業生を対象に「同志社女子大学の集い」を開催しました。保護者向けの就職説明会では、昨年度の就職・進路状況とともに、キャリア支

援の取り組みについて説明を行いました。新島八重研究会の教員による講演会は参加者の関心も高く、いずれの会場も盛会となりました。



交流20周年記念式典

精華町と包括連携協定を締結、地域との連携を強化

学校法人同志社、同志社大学、同志社女子大学は地域社会の発展に寄与することを目的に、自治体や大学・高校などと積極的に連携を図っています。例えば2013年1月30日に学校法人同志社は、学研都市建設の中核を担う京都府精華町と包括連携協定を締結しました。同志社大学京田辺校地のラーネット記念図書館を、精華町の皆さん

に利用していただくほか、精華町の各種委員会などへの大学教員の参加、精華町による学生インターンシップの提供など、知的・人的・物的資源を活用して相互交流を進めます。

また、同志社女子大学では12年11月3日に新島記念講堂において、京田辺市民文化祭の特別企画として、京田辺「第九」コンサートが行われました。

京田辺市文化協会・京田辺音楽連盟による演奏会に、同志社女子大学学芸学部音楽学科の教員と学生が協力。音楽学科管弦楽団がオーケストラとして参加し、京田辺「第九」市民合唱団160名の皆さんとともに演奏を披露しました。地域と大学が一体となって実現した温かい演奏に、会場は大きな拍手で包まれました。

アフガニスタン和解の打開策を国際会議で提示

同志社大学のグローバル・スタディーズ研究科と一神教学際研究センター、アフガニスタン平和・開発研究センターは共同で2012年6月27日に、「アフガニスタンの和解と平和構築」と題した国際会議を今出川キャンパスで開催しました。会議では八田英二学長（当時）の開会のあいさつに続き、基調講演と参加者による討論が行われ、アフガニスタンの和解と平和構築に向けた具体策を提示しました。

国際会議には、タリバン側からイアデナ・ムハンマド師（アフガニスタン・

イスラーム首長国）とアブドゥッサラーム・ザーフ師（元タリバンの駐パキスタン大使）、ガイラト・パヒール氏（イスラーム党政治局長）が、カルザイ政権側からマンスーム・スタネクザイ大統領顧問が参加しました。さらに、アフガニスタンで学校の建設・運営を手がけるトルコ系NGO（非政府組織）のヌマン・エルドアン氏も加わりました。

タリバンが公式の代表を国際会議に送ったのも、政府側の代表と同席したのも、今回が初めてです。こうした歴史的な会議を実現したことに加え、今

後の和平交渉の第1歩が同志社から踏み出されたことの意義は、極めて大きいと考えています。海外の主要メディアも大きく報道しました。



国際会議「アフガニスタンの和解と平和構築」参加者による討論のようす

ハイライト ⑥ 環境保護に関する取り組み

「世界学生環境サミット」や「COP18」で真剣な議論

同志社大学は現在、省エネルギーや地球温暖化防止などの環境保護活動に積極的に取り組んでいます。

その一環として、2012年9月5日から8日には、本学が先導して毎年実施する「世界学生環境サミット (WSES)」が、スイスのローザンヌ大学で開催されました。5回目となる今回のサミットには、31カ国の38大学から71名が

参加し、本学からは3名の学生が参加。各国の学生と真剣な議論を繰り広げました。環境保護意識の世界的な高まりを受け、参加校と参加者は回を追うごとに増加しています。

12年11月26日から12月7日までは、カタールのドーハで開催された「国連気候変動枠組み第18回締約国会議 (COP18)」に、「世界学生環境ネット

ワーク (WSEN)」のスタッフを務める本学の学生3名が参加しました。COP18では国連の許可を得て、会場内に専用のブース展示場を確保し、WSESの取り組みを積極的にアピールしました。また11月29日には、参加した学生3名が会場内で国連からインタビューを受け、その模様インターネットで世界中に配信されました。

ハイライト ⑦ 寄付事業に関する取り組み

新寄付教育プロジェクト、新寄付講座が始動

学校法人同志社は、寄付教育研究プロジェクトを推進するとともに、寄付講座の開設などを積極的に行っています。その一環として、同志社大学大学院の脳科学研究科が2012年10月1日に、寄付教育研究プロジェクトの「天然物基盤創薬研究センター」(設置期間は13年9月30日までの予定)を開設しました。株式会社山田養蜂場本社から1,000万円の資金提供を受けて、中

枢神経系疾患 (特にアルツハイマー病、うつ病、パーキンソン病など) を対象に、全く新しい作用機序に基づく天然物由来の創薬・サプリメント創成をめざした研究を行っています。

寄付講座では同志社大学に、「読売新聞寄付講座」(春学期、2単位)が改めて、「大学生協寄付講座」(秋学期、2単位)が新たに、開設されました。法学部が開設した読売新聞寄付講座は、

時事問題に対する学生の理解と関心を高め、幅広い視野を持った人材を育てるのが目的です。読売新聞大阪本社の論説委員や編集委員の方から、現代社会の諸問題が論じられました。また、商学部が開設した大学生協寄付講座では、協同組合の存在意義、起源と歴史、現在の課題、将来展望について、農協、森林組合、生協などの実務家による講義を行いました。

【ロンドン五輪と同志社大学】フェンシングで「銀」、女子競泳800mリレーで8位入賞

2012年7月27日から8月12日まで開催された「ロンドンオリンピック」に同志社大学の現役学生とOB・OGの5選手が出場し、すばらしい活躍を見せてくれました。日本中を熱狂させたのがフェンシングの太田雄貴さんです。フルール男子団体の準決勝では残り2秒で奇跡の逆転勝利を収め、銀メダルの獲得につなげました。フェンシング女子フルール個人・団体では、

池端花奈恵さんが7位と8位に入賞しました。女子競泳800mリレーには、現役学生の高野綾さん(当時スポーツ健康科学部1年生)が出場し、アンカーを務めました。100分の2秒差で準決勝を突破して進出した決勝は8位でしたが、堂々の入賞を果たしました。陸上・棒高跳びの我孫子智美さんと、トライアスロンの足立真梨子さんも世界の強豪を相手に、堂々

とした戦いぶりでした。また女子サッカー「なでしこジャパン」では前田信弘さんが、ゴールキーパーコーチを務めました。



ローム記念館で行われた高野さんの壮行会

【自然災害に対する緊急措置】竜巻や大雨、台風、暴風雪の被災者を対象に学費減免

2011年に続き、12年も大きな自然災害が続きました。同志社大学は「東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置」を継続するとともに、次の12年の大規模自然災害についても、在学生を対象に減免措置を行いました。同志社女子大学も同様の措置を行いました。

【竜巻による被害に伴う学費等減免の実施】
【栃木県】真岡市、芳賀郡茂木町、芳賀郡益子町
【茨城県】つくば市、常陸大宮市、筑西市、桜川市
【大雨による被害に伴う学費等減免の実施】
【大分県】日田市、中津市、竹田市
【福岡県】朝倉市、久留米市、柳川市、八女市、筑後市、みやま市、うきは市、八女郡広川町
【熊本県】阿蘇市、熊本市、阿蘇郡南阿蘇村、

阿蘇郡産山村、阿蘇郡高森町
【京都府】宇治市

【台風16号による被害に伴う学費減免の実施】
【鹿児島県】大島郡与論町

【暴風雪による被害に伴う学費減免の実施】
【北海道】室蘭市、登別市、伊達市、虻田郡豊浦町・洞爺湖町、有珠郡壮瞥町、白老郡白老町

Doshisha University

同志社大学

21世紀の私立大学の「魁」をめざして 社会や時代の要請に応える改革を推進



■ 創立	1875年
■ 所在地	〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601 TEL: 075-251-3110 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL: 0774-65-7010
■ URL	http://www.doshisha.ac.jp/

2013年度に“教学新体制元年”を迎える同志社大学は、21世紀に飛躍する私立大学の「魁」になるため、教学や研究のより一層の充実を図る取り組みを行っています。

グローバル化をさらに進展させる フレームワークが整う

教学面では、グローバル人材育成推進事業「良心と進取の気性に溢れる同志社グローバル人材育成のための実践的取組」が、12年度の文部科学省「グローバル人材育成推進事業（グローバル30 plus）タイプA（全学推進型）」に採択されました（詳細はp.10「ハイライト」参照）。文部科学省から「S評価」を受けている、いわゆる「グローバル30」（留学生の受け入れが中心）と、今回採択された「グローバル30 plus」によって、グローバル化推進事業のフ

レームワークが整いました。

12年7月には7番目の海外拠点となる「イスタンブール事務所」を、13年4月には「グローバル地域文化学部」を開設しました。教学理念の1つである「国際主義」を推進するこれらの取り組みによって、グローバル社会で活躍できる人材の育成に、より一層力を入れていきます。

建学の精神を継承する グローバル・リーダーを育成

大学院教育の改革も進んでいます。その大きな柱が、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」(GRM)です。

文部科学省の補助事業である「博士課程教育リーディングプログラム」は、大学院教育の抜本的改革を支援するものです。優秀な学生を、俯瞰力と独

創性を備え、産官学にわたってグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超え、博士課程前期・後期一貫の世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開します。

12年度の同事業に採択された同志社大学のGRMプログラムでは、多文化共生社会の実現に挑むため、「グローバル・リソース・マネジメント」という学際領域を設定し、人間生存の基盤である「資源・エネルギー工学、インフラ科学」と、「地球規模課題群（グローバル・イシューズ）」に関わる人文・社会科学を融合した学位プログラムを構築しました。プログラムはグローバル・スタディーズ研究科と理工学研究科に加え、神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科から学生を募り、選抜した上で実施します。選抜された学生には、「グローバル・リソース・マネジメント履修生特別奨励金」を給付し、プログラムの活動に専念できる環境を提供します。

GRMプログラムがめざすグローバル・リーダーとは、「エリート型」のリーダーや過去の成功者をモデルにしたものではありません。強靱な精神と高度な倫理観を持って、困難な状況にある国や新興国を舞台に活躍できる真のグローバル・リーダーです。若年人口の層が厚い新興国で切磋琢磨することで、少子化が進み閉塞感が高まる日本の再生に貢献できる人材の育成をめざしています。同時に、最も困難な状況に直面する国や地域の人々と共に、その困難を打開できる人材を養成します。

着実に進む産官学連携事業 リエゾンオフィス開設10周年

研究面では、大学間の競争が激しさを増す状況の下で12年度も、産官学連携や国際共同研究、研究拠点形成など

に積極的に取り組みました。例えば、生命医学部の医生命システム学科が中心になって立ち上げた5年間のプロジェクト「高次神経機能障害の発症メカニズムの解明と新規治療法の開発」が、文部科学省の「平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されました。総額約2億円（1億円が文部科学省と私学事業団の補助金）の事業規模で、アルツハイマー病やパーキンソン病などの高次神経機能障害の発症メカニズムの解明と、新規治療法の開発に取り組んでいます。

脳科学研究科では、日本学術振興会の「平成24年度研究拠点形成事業（A.先端拠点形成型）」に採択されたプロジェクト「神経シナプスナノ生理学拠点の構築」がスタートしました。海外からドイツのゲッティンゲン大学大学院、フランスのパリ第5大学、国内から理化学研究所脳科学総合研究センター、自然科学研究機構生理学研究所が参加。特に未解明の部分が多い「シナプス前終末の動的特性」の解明と、その分子基盤の確立をめざしています。

産官学連携の窓口である「リエゾンオフィス・知的財産センター」は12年度に、開設10周年を迎えました。12年7月11日に京都市内のホテルで開催した開設10周年記念フォーラムでは、これまでの産官学連携実績が紹介され、次の10年に向かって取り組むべき課題が提示されました。同志社大学と連携活動の実績がある企業3社と支援機関による講演も行われました。今後も様々な活動に意欲的に取り組み、「研究力の同志社大学」をめざします。

社会との連携を重視した地域に貢献する取り組み

地域社会に貢献するための様々な活動も行っています。12年5月19日には京田辺校地で、「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」を開催しました。

20年目の今回のメインテーマは「国際政治・経済の動向」。定員600名をはるかに超える1,244名の応募があり、抽選で選ばれた約600名の受講者は、第一線の講師の話に熱心に耳を傾けていました。最終回には、大河ドラマ「八重の桜」の主人公・新島八重への理解を深める講義も行われました。

12年11月3日～4日に開催した京田辺校地の学園祭である「同志社クロバー祭2012」には、京田辺市民の方々が延べ約1万4,500名来場され、祭の3本柱の1つに「震災復興支援」を掲げ、応援メッセージの作成や福島県の物産展の出店などを行いました。また、12年7月から11月にかけて全国7カ所で開催した「同志社大学キャンパスフェ

スタ」も好評でした。

定員を上回る入学者数 安定した大学運営を継続

13年度（13年4月）学部入学者の入試実績は、一般選抜入試の志願者が4万1,072名（前年度比3.0%の増加）、センター試験利用入試の志願者が1万274名（前年度比8.3%の減少）となりました。13年度の入学者数は入学定員を上回り、堅調な財政状況の維持によって、今後も安定した大学運営が見込めます。

同志社大学は今後も、建学の精神と教育理念に立脚した取り組みを積極的に行い、世界に貢献できる有益な人材の育成に努めてまいります。

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数（2012年5月1日現在）

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
神学部	60	61	240	309
文学部	670	734	2,680	3,091
社会学部	400	417	1,600	1,913
法学部	850	858	3,400	3,853
経済学部	850	931	3,400	3,861
商学部	850	836	3,400	3,767
政策学部	400	401	1,600	1,749
文化情報学部	280	325	1,120	1,274
理工学部	730	760	2,920	3,624
生命医科学部	240	285	960	1,114
スポーツ健康科学部	150	156	600	679
心理学部	150	171	600	646
グローバル・コミュニケーション学部	150	160	300	296
合計	5,780	6,095	22,820	26,176
研究科				
神学研究科	25	16	55	85
文学研究科	77	49	171	160
社会学研究科	53	37	122	117
法学研究科	145	84	305	179
経済学研究科	55	12	115	31
商学研究科	70	23	145	74
総合政策科学研究科	105	70	225	238
文化情報学研究科	32	20	66	60
理工学研究科	298	365	609	836
生命医科学研究科	124	109	148	175
スポーツ健康科学研究科	11	15	19	22
心理学研究科	14	10	32	35
アメリカ研究科	—	—	—	11
グローバル・スタディーズ研究科	63	54	144	118
脳科学研究科	10	5	10	5
司法研究科	120	54	360	208
ビジネス研究科	70	44	140	112
合計	1,272	967	2,666	2,466
総計	7,052	7,062	25,486	28,642

教員数、職員数（2012年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
778	1,370	2,148	332	108	440	2,588

※理工学研究科には工学研究科を含む。

同志社(法人) 2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育・研究	中高の国際化推進プログラムの実施	立石信雄氏(オムロン株式会社特別顧問)からの寄付金により、特色ある国際主義教育を展開し、国際社会に貢献できる生徒の育成を目的としたプログラムを実施
	第30回「東京新島講座」開催(11/18) (※「キャンパスフェスタ in 東京」と同時開催)	講師・講演: 露口卓也文芸学部教授「新島八重の印象—その精神力について」 講師・講演: 米井嘉一生命医科学部教授「健康長寿をめざすアンチエイジング研究最前線」
	第35回「新島講座」開催(11/19、21)	講師・講演: Virginie Guiraudon氏(パリ政治学院教授)「流動性と多様性: いかにしてヨーロッパは移民大陸になったのか?」 公開セミナー:「ヨーロッパにおける自民族中心主義の政治と移民」
	第17回同志社国際主義教育講演会開催(1/11)	講師: ベニシア・スタンリー・スミス氏(ベニシア国際ナショナル英会話スクール代表) 講演: 「Staying Young—いつまでも若々しく、健康でいるために〜」
財政	格付けの更新	2012年5月、R&I(格付投資情報センター)が、発行体格付AA+(ダブルAプラス)方向性は安定的と格付維持(8年連続)を発表
	その他	「風間浦村との連携協力に関する協定書」締結 2012年10月13日締結、「人材交流、教育・文化等の振興・発展のため連携」 「福島県とのふくしま復興のための包括連携に関する協定書」締結 2013年1月29日締結、「相互の発展を図りながら、東日本大震災からのふくしま復興に寄与」 「精華町との連携協力に関する協定書」締結 2013年1月30日締結、「知的、人的、物的資源を有効に活用した事業を推進」 「医科大学(医学部)設置基本計画検討チーム」の編成 意思決定に必要な情報や資料を提供し、基本計画を検討 第17回「国際交流に関するエッセイコンテスト」表彰 応募: 日本語部門13点(大学生の部3点、高校生の部7点、中学生の部5点、英語部門124点(大学生の部5点、高校生の部82点、中学生の部37点)、表彰: 最優秀賞6名、優秀賞7名、佳作10名 第170回「新島襄生誕記念会」開催(2/12) 新島研究論文賞: あさくらゆう 新島襄生誕記念懸賞論文表彰: 最優秀賞2名、優秀賞4名、佳作6名 第2回同志社「中学生・高校生英語大会」(2/17) 中学生の部(Recitation Section)D部門9名・I部門4名、高校生の部(Speech Section)D部門8名・I部門6名の計27名が出場、最優秀賞1名、各部門1名に優秀賞、優良賞を表彰 新島襄生誕170年記念出版 岩波文庫から「新島襄自伝—手記・紀行文・日記」を出版 同志社同学校説明会の実施 幼稚園から大学まで合同の学校説明会を大阪(6月24日)、京都(大学オープンキャンパスと同日8月5日)で開催

同志社大学2012年度の実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	「脳科学研究科」設置	専攻構成: 発達加齢脳専攻(一貫制博士課程) 入学定員10名、設置場所: 京田辺校地(学研都市キャンパス)
	「スポーツ健康科学部」設置	修士課程を博士課程(前期課程・後期課程)へ変更 入学定員: 前期課程8名、後期課程3名
	「生命医科学研究科」再編	現在の博士課程(前期課程・後期課程)1専攻を2専攻へ再編 専攻構成: 医工学・医情報学専攻(前期課程90名、後期課程2名)、医生命システム専攻(前期課程20名、後期課程12名)
	研究科名ならびに専攻名の名称変更	「工学研究科」を「理工学研究科」に、同研究科「工業化学専攻」を「応用科学専攻」に名称変更
教職員採用	教員・職員	専任教員17名、任期付教員40名、専任職員16名
教育・研究	「博士課程教育リーディングプログラム」採択	申請類型: 複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称: グローバル・リソース・マネジメント 基幹研究科: グローバル・スタディーズ研究科、理工学研究科
	「私立大学教育研究活性化設備整備事業」採択	「ラーニング・commonsにおける学生の主体的学びと学修の質保証」、「高度な医療機器を学生実験にて活用するエンジニア養成プログラム」、「高度ICTエンジニア育成のための実験実習設備」
	「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択	「高次神経機能障害の発症メカニズムの解明と新規治療法の開発」 研究代表者: 小林聡生命医科学研究科教授 事業期間: 2012年4月1日〜2017年3月31日
	「日本学術振興会研究拠点形成事業」(A. 先端拠点形成型)採択	「神経シナプス生理学拠点の構築」 コーディネーター: 高橋智幸脳科学研究科教授 事業期間: 2012年4月1日〜2017年3月31日
	「脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」採択	「現代イスラム世界の移行モデル国家としてのトルコにおける市民運動と民主化」、「幸福感の国際比較分析に基づく、経済競争力のある福祉国家の構築に関する研究」
	科学研究費助成事業	交付件数278件、交付金額6億5,000万円(過去最多)
	研究センターの開設	「波動エレクトロニクス研究センター」、「高次神経機能障害研究センター」、「先端複合材料研究センター」、「神経疾患研究センター」、「新エネルギー変換材料研究センター」、「管径方向分配現象研究センター」、「治療システム研究センター」、「ナノ・バイオサイエンス研究センター」、「市民外交研究センター」、「先端バイオメカニクス研究センター」
	寄付教育研究プロジェクトの開設(研究センター)	「天然物基盤創薬研究センター」
	研究環境充実費(学部・研究科分)新設	学部・研究科等における研究活動の促進、研究環境の整備、大学院生を含む若手研究者の支援をめざす
	研究環境充実費(研究センター分)新設	研究センターに助走的または準備的研究資金を措置し、外部資金が獲得できるよう研究の基盤づくりをめざす
	リエゾンフェア	「リエゾンオフィス・知的財産センター」開設10周年記念フォーラム
	「大学間連携共同教育推進事業」採択	「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」、「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」、「教学評価体制による教育の質保証—教学質保証ネットワーク—」
	寄付教育研究プロジェクトの開設(寄付講座)	「坂田記念ジャーナリズム振興財団寄付講座(現代メディア・ジャーナリズム論)」、「医療法人石鐘会田辺中央病院寄付講座(スポーツ・トビックス2 スポーツと健康の関係を探る)」、「博報堂DYメディアパートナーズ寄付講座(スポーツ・トビックス1 スポーツビジネスはいかに行われるか)」、「京都市民生活センター寄付講座(複合領域科目2 消費者問題入門)」、「連合寄付講座(働くということ—現代の労働組合—)」、「同志社会計士会寄付講座(会計情報と組織運営)」、「大学生協寄付講座(協同組合論—ひと・絆・社会連帯を求めて—)」、「読売新聞寄付講座(特殊講義—メディアから現代社会を読む)」、「ミネルヴァ書房寄付講座(文化史特論(6))」
	日米研究インスティテュート運営に関する協定	米国NPO法人「日米研究インスティテュート」の運営について、九州、京都、慶応義塾、筑波、東京、立命館、早稲田の各大学学校法人と協定書締結
	他大学・研究機関などとの交流協定、包括協定、教員交換協定、学生交換協定の実施(大学間)	サウサンプトン大学(イギリス)、延世大学神学部(韓国)、国立清華大学(台湾)、オスロ大学(ノルウェー)、コロラド大学ボルダー校(アメリカ)、コスタリカ大学(コスタリカ)、ダブリンシティ大学(アイルランド)、ローマ大学(イタリア)、カブル大学(アフガニスタン)、フランス社会科学高等研究院(フランス)、総合地球環境学研究所、独立行政法人国立長寿医療研究センター
	他大学・研究機関などとの交流協定、連携協定の実施(学部・研究科間など)	京都大学大学院生命科学研究科と同志社大学脳科学研究科との間における特別研究学生交流に関する協定、社会学部と淡江高級中学との高大連携協定
	UNESCOと協定締結	「ユネスコ・チェア」の称号を獲得し、研究する立場を明確化
連携大学院方式による教育・研究に関する協定書等締結	「独立行政法人海洋研究開発機構」、「日本ケミカルリサーチ株式会社」、「山科精工株式会社」	
国際的な教育プログラムを推進するコンソーシアム形成に関する覚書	ASEAN諸国を中心としたアジアの大学と国際的な協働教育プログラムを推進し協力関係を強化することを目的としたコンソーシアムを、新潟、富山、福井、長崎、金沢の各大学と形成	
大学IRコンソーシアム	2012年9月「大学IRコンソーシアム」を設置し、連携大学間の事業を拡大	
「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」	NAFSA 2012 Annual Conference、EAIE 2012 Annual Conference、トルコ事務所開所式(7/14大学説明会)、日本留学フェア開催(トルコ)、留学生父母懇談会(ソウル)	
「グローバル人材育成推進事業」採択<申請区分: タイプA(全学推進型)>	「国内型」と「留学型」の二つの新たな教育プログラムを中心に、創業者である新島襄がめざした「良心教育」を礎として、「高い倫理観」と「幅広い教養」を兼ね備え、自らの責任で思考し、行動できるグローバルな人物の養成をめざす	
留学生学習・研究支援チューター制度	留学生の日本語及び英語力の向上や専門分野の研究についての支援を、指導教員の指導のもと、本学の正規学生が行う制度	
情報環境の整備充実	ICカード化によるAV教車キーレスエントリー化、遠隔講義システム更新など	
司法研究科の教育支援	アカデミックアドバイザー、特別授業等実施、判例・法令・法律雑誌データベース契約の継続、国際法務教育プログラム実施など	
入試	志願者数	一般選抜入試4万1,072名、大学入試センター試験を利用する入試1万274名

入試	一般選抜入学試験の試験地変更	高崎会場を廃止し、新潟会場を新設
	外国人留学生入試	ソウル(韓国)、上海(中国)
	海外指定校推薦入学面接の実施	ソウル・釜山(韓国)、上海(中国)、台北(台湾)
	留学生別科海外入試	北京、上海(中国)
	国際教育インスティテュート入試広報 留学説明会、進学(留学)フェア、高校 訪問(説明会・模擬授業実施など)	Japan Day主催：ハートルプール(イギリス)、ドバイ(アラブ首長国連邦)、シドニー(オーストラリア) 参加フェア：「QS world University Tour：バンガロール(インド)」、「Hawaii College & Career Fair」、「CISフォーラム：モナコ」、「Kanto Plains College Fair(東京)」、「KIST Spring College Fair(東京)」、「Yokohama College Fair(横浜)」 高校訪問など：シンガポール、グアム、ジャカルタ・バンドン(インドネシア)、ドバイ・アブダビ(アラブ首長国連邦)、シドニー・メルボルン(オーストラリア)
「G30大学主催留学フェア」参加、 「同志社大学説明会」開催	韓国、中国、台湾、タイ、シンガポール、インド、インドネシア、ベトナム、トルコ、イギリス	
JASSO日本留学フェア	高雄・台北(台湾)、釜山・ソウル(韓国)、チェンマイ・バンコク(タイ)、ジャカルタ(インドネシア)、ハノイ・ホーチミン(ベトナム)、クアラルンプール(マレーシア)	
学生支援	大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生特別奨励金新設	グローバル・リソース・マネジメントのプレミナリー試験(PE)、或いは、クオリファイイング試験(QE)に合格し、博士学位取得及びグローバル・リソース・マネジメントの修了を目指す者に奨励金を支給
	博士後期課程若手研究者育成奨励金給付	博士学位取得を目指す入学時34歳未満の学生対象
	脳科学研究科特別奨励金給付	博士学位取得を目指す入学時32歳未満の学生対象
	同志社大学院私費外国人留学生授業料減免特別奨励金給付	留学生の20～30%に対し年間授業料を100%減免
	同志社大学私費外国人留学生授業料減免奨励金給付	年間授業料の50%、30%、20%を減免
	特定国からの外国人留学生に対する支援奨励金新設	特に経費支弁が困難である国や地域から入学を希望するものに月額8万5,000円に加え、学生納付金全額を支給
	留学生別科対象奨励金給付	年間授業料相当額の50%、30%または20%を支給
	東日本大震災被災学生支援募金開設	東日本大震災被災学費減免申請者46名に対し給付
	東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置の実施	受験生：入学検定料を全額免除 新入学生：入学金全額、春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除 在学学生：春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除
	大雨、竜巻、台風、暴風雪による被害に伴う学費等減免措置の実施	災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、在学学生に対して減免措置を実施
	課外プログラム	「エンパワー&エコツアー-西表島」、「函館キャンパス」、「フレッシュヤーズキャンパス」、「アッセンブリーアワー」、「WOT(ワット)」、「クローバーシアター」、「寒梅館夏まつり」、「CLAP」、「b(ぶらっと)プログラム」
	国際交流イベント「インターナショナルデー」	「World Caféシリーズ(中国、韓国、フランス)」、「World Kitchen」、「てくてく韓国講座」、「ハロウィンパーティ」、「クリスマスパーティ」、「フワで国際交流」
	新入留学生の集い	新入留学生を歓迎するため、各学部長や各研究科長、教務【国際】主任等も交えたパーティを学長が主催。(2012年4月12日、10月11日)
	留学生生活支援アドバイザー	来日直後の留学生の学生生活の相談や質問に、本学の正規学生が応じるサポート制度
	留学生アンケート調査(生活編・キャリア編)の実施	留学生の学生生活実態や就職活動の状況等を把握するため、アンケート調査を実施
財政	2013年度、2014年度入学生学費	2012年度入学生と同額に据え置きを決定
	第2号基本金組入計画新設	教育研究施設設備の整備充実にあて充てる財源を予め計画的に確保するため、教学施設所要見込総額に伴う組入(2013年度～2017年度)を毎年12億円ずつ実施
	募金事業	今出川キャンパス新校舎建設資金募金、教育研究施設等整備資金募金、特定寄付奨励金募金、スポーツ活動充実資金募金など
	遺贈寄付(預貯金)の受け入れ	2億3,500万円(金銭的に恵まれない学生に勉学の機会を与えるため)
その他	世界学生環境サミット出席	ローザンヌ大学(スイス)
	Doshisha Spirit Week 2012	「同志社を学び、知る」をテーマに春秋実施：5/28～6/2、10/29～11/2
	同志社キャンパスフェスタ開催	校友・在校生・受験生との交流：(栃木(7/8)、福岡(7/14)、愛知(10/8)、青森(10/14)、香川(10/20)、東京(11/18)、鳥取(11/23))
	同志社フェア in 風間浦	卒業生とのネットワーク強化(10/13～10/14)
	新島旧邸特別公開	2012年9月27日～2013年12月27日、NHK大河ドラマ「八重の桜」放映に伴い、創立者新島襄の邸宅を公開
	「新島八重子回想録」	復刻版の発行
	新司法試験合格者数	44名(全国13位、西日本私立大学中1位)
	節電への取組	7/2～9/7の期間、今出川校地15%、京田辺校地16.35%の節電措置
	「ホームカミングデー」開催	同志社創立137周年記念Reunion(2012年11月11日)、在学生と卒業生が世代を超えてつながる催しを実施
	同志社クローバー祭2012	2012年11月3日～4日開催、学生・教職員・市民が一体となり、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成をめざす
	名譽文化博士贈呈	陳雨露(中国人民大学長)、ドナルド・キーン氏(元コロンビア大学教授)、Bernd Engler氏(チュービンゲン大学長)
	東日本大震災復興協力金募金	福島県の復興支援に対して福島県へ義援金として贈呈
	Neesima Room 企画展	「私の同志社スポーツ」、「会津と八重一八重を育てた故郷一」
	京田辺キャンパス礼拝堂および関連施設	設計提案競技を実施(856件応募)
	京田辺クリスマス燭火讃美礼拝	学生、教職員と京田辺市民の参加によるクリスマス礼拝
	AKP・同志社大学40周年友好提携記念講演会	2012年11月12日「2012年アメリカ大統領選挙の意義」
	「グローバル地域文化学部」の開設準備	今出川校地において2013年4月に開設
	短期プログラム受け入れ	夏期および冬期に、1～2ヶ月の短期留学生プログラムを受入れ、実施(カールトンカレッジ、ノースイースタン大学、ニューオリンズ大学、ロチェスター工科大学、ハーバード大学、KCJS、CLS、同徳女子大学、同志社大学サマーセッション、同志社大学スプリングセッション)
第22回風間浦村との国際交流事業実施	9月4日～7日に留学生4名が訪問し、小中学生と交流	

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
今出川校地	今出川校地整備	2009～2012年度	本年度支払額108億円	学生生徒等納付金、寄付金、第2号基本金
	その他整備	2012年度	900万円	学生生徒等納付金、寄付金
京田辺校地	屋内体育施設	2012年度	3,200万円	学生生徒等納付金、寄付金
	事務室移転整備	2012年度	1,600万円	学生生徒等納付金、寄付金
	香柏館・自然系実験実習棟整備	2012年度	1億5,500万円	学生生徒等納付金、寄付金
	その他整備	2012年度	1億4,600万円	学生生徒等納付金、寄付金
		2012年度	5,000万円	学生生徒等納付金、寄付金
		2012年度	2,200万円	学生生徒等納付金、寄付金
		2012年度	2,130万円	学生生徒等納付金、寄付金
	2012年度	470万円	学生生徒等納付金、寄付金	

同志社女子大学

将来構想の具現化に取り組み 女子総合大学のブランド向上をめざす



DATA	■ 創立	1876年
	■ 所在地	〒610-0395 京都府京田辺市興戸南鉦立97-1 TEL : 0774-65-8411 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1 TEL : 075-251-4111
	■ URL	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/

同志社女子大学は建学以来受け継いできた教育理念の下、今日における大学の使命を考えてきました。そして2012年2月に、「将来構想に向けた方針・方策」とそれらを実現するための7つの目標を公表し、現在は具現化する取り組みを推進しています。

また、ブランド構築アクションプランに基づく活動にも力を入れています。女子総合大学としてSpirit（教育理念）に裏打ちされたMission（同志社女子大学が育む女性像）に基づき、教育・研究活動を展開しています。

リベラル・アーツとキャリア教育の有機的連携、教学組織を新たに設置

キャリア教育の強化のため、学生に卒業までに身につけてもらいたい力として11年度に定めた「DWCLA (Doshisha Women's College of Liberal Arts) 10」を、12年度から各授業科目のシラバスに明記しています。これにより、各授業でどのような力がつくかを学生自身が意識することがで

き、学びへの自発的な取り組みが期待されます。今後はリベラル・アーツとキャリア教育の有機的な連携を進め、自らの生き方を確立し、社会に貢献できる女性の育成をめざします。

また、大学院教育・研究の充実を図るため、12年4月に大学院薬学研究科（医療薬学専攻）を設置しました。4年制の博士課程で入学定員は4名。医療薬学の発展に貢献できる高度な専門性

や優れた研究能力を有する高度専門的職業人と、その指導者の養成を目的としています。

ブランド構築アクションプランに基づく取り組み

同志社女子大学では06年度よりブランド構築のための取り組みを行っています。07年度にはブランド管理委員会を設置。毎年ブランド構築アクションプランを策定し、実行・検証しています。12年度は授業の始まりのチャイムを「Doshisha College Song」、終わりのチャイムを「同志社女子大学大学歌」に変更しました。学生が同志社女子大学の学生としての自覚と誇りを持って学生生活を送ってくれることを願った取り組みです。また、新入生・在学生在を対象とした京料理のマナー講座の開催や、一人暮らしの学生が健全な食生活を送るためのレシピ本を発行し、レシピは大学公式サイトでも紹介しています。さらに、大学の歴史に対する理解を深めることを目的に新島八重研究会を発足。その研究成果として12年秋に『同志社の母 新島八重』を発行し、在学生・教職員に配付しました。

保育士養成課程を設置 資格取得支援講座も充実

12年3月に行われた「第26回管理栄養士国家試験」では、生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻を同年3月

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数 (2012年5月1日現在)

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
学芸学部	315	349	1,280	1,491
現代社会学部	400	468	1,620	1,817
薬学部	120	148	720	805
表象文化学部	290	319	1,180	1,269
生活科学部	215	263	860	1,029
合計	1,340	1,547	5,660	6,411
研究科				
文学研究科	31	17	70	39
国際社会システム研究科	10	1	20	5
薬学研究科	4	3	4	3
生活科学研究科	13	2	26	14
合計	58	23	120	61
総計	1,398	1,570	5,780	6,472

教員数、職員数 (2012年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
177	522	699	75	72	147	846

に卒業した78名が受験し、76名が合格しました。合格率は97.4%で、好成績を維持しています。

現代社会学部現代こども学科6期生のうち39名が受験した「平成25年度公立小学校教員（講師除く）採用試験」は、24名が二次試験に現役で合格し、合格率は61.5%となりました。同学科には12年4月入学生から新たに「保育士養成課程」を設置しました。

キャリアサポートセンターが実施する資格取得支援講座の活用も盛んです。12年度は延べ約1,600名の学生が受講しました。受講生の1人が「MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）世界学生大会2012」の日本代表（パワーポイント部門）に選ばれ、世界大会に出場。世界第13位に輝きました。

国内外の教育機関と協定を締結 教育連携を強化

12年5月には、米国アーカンソー大学フォートスミス校（UASF）と学生交流協定を結びました。同志社女子大学から毎年5名程度がUASFに1年間留学し、UASFから2名程度の留学生在が同志社女子大学の「Japan Studies Program」に参加することになります。

また国内では、人的・知的資源の交流・活用を通じて新たな学びの場を創造するとともに、相互の教育の充実・発展に資することを目的として、7月にプール学院高等学校（大阪市）、10月に金城学院高等学校（名古屋市）とそれぞれ教育連携協定を締結しました。この2校が加わり、高等学校の教育連携協定校は14校になりました。

入試志願状況は堅調 キャンパス整備計画を公表

13年度（13年4月入学）の一般入試志願者数（センター利用入試を含む）は1万280名（前年度比5.8%増）、その他の入試の志願者数は4,090名（同14.1%増）でした。

13年2月には、今出川キャンパス整備の建設工事計画を公表しました。13年8月から18年3月までの予定で整備

を進めます。今回の整備計画では耐震化への対応を含む安心・安全なキャンパスの実現だけでなく、ゾーニングを

基本とした施設の配置による機能面も重視、快適な学生生活とともに自主的な学習環境の整備をめざしています。

同志社女子大学2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	大学院薬学部研究科医療薬学専攻博士課程開設	入学定員4名、収容定員16名
	音楽専攻科申請	入学定員20名、修業年限1年 中学校教諭・高等学校教諭専修免許状（音楽）課程設置 2012年6月設置に係る届出、教職課程に係る申請
教職員採用	特別任用教授[2号]（薬学部医療薬学科2名・表象文化学部日本語日本文学科1名）、特別契約教員（現代社会学部社会システム学科1名）、任期付教員（学芸学部情報メディア学科1名・生活学部人間生活学科1名）、特別任用助教（薬学部医療薬学科1名）、専任職員3名、常勤嘱託職員2名	
教育・研究	現代社会学部現代こども学科に保育士養成課程開設	課程の定員50名
	キャリア教育の充実	キャリア教育科目、各学科が実施するインターンシッププログラムの充実、本学学生が身につけるべき基礎的・汎用的能力「DWCLA10」の理解促進
	奈良県立医科大学との連携事業	単位互換科目「健康科学概論」（医療薬学科応用各論科目）新設
	ティーチング・アシスタント制度導入	大学院生の教育経験、学部教育の充実を目的として実施
	情報環境の整備充実	ネットワークリプレイス、一般教室・情報処理教室・自習室のシステムリプレイスなど
	「私立大学教育研究活性化設備整備事業」	「ICTを活用したアクティブ・ラーニング支援システムの導入」が採択
	保育士演習室設置	課程設置に伴う対応
	English Camp 開始	英語コミュニケーションスキルの向上を目指した2泊3日の合宿研修
入試制度	音楽学科音楽文化専攻のコース制を廃止し、音楽文化専攻で募集	コース制廃止に伴い、コース別の審査ではなく音楽文化専攻として募集および選考（審査）
	推薦入学試験S（公募制推薦入学試験）の二次選考（面接）の廃止	
	学外入学試験場見直し	推薦入学試験S：高松試験場の新規実施
	教育連携特別推薦入学試験の見直し	被推薦学科数および人数枠の拡大
学生生徒支援	音楽専攻科入学試験実施	募集人員20名 特別推薦入学試験および一般入学試験実施
	「同志社女子大学新島賞」の充実	学力、人物ともに特に優秀な者に対し、一層の向上を奨励することを目的として副賞を増額
	「同志社女子大学大学院特別奨学金」の充実	薬学研究科設置に伴う採用数増
	Web履修登録システムの導入	秋学期登録時より実施
財政	大雨、突風、暴風雪等による被害に伴う学費等減免措置の実施	災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、新入生、在学生に対して減免を実施
	第2号基本金組入	キャンパス施設設備整備充実資金8億円
	第3号基本金組入	教育研究充実資金4,000万円
その他	募金事業	教育研究条件整備資金募金
	「同志社女学校の創成期と新島八重」関連事業の実施	新島八重研究会による小冊子の作成、特設サイトの開設、オリジナルグッズの制作
	京都聖母学院との連携強化	京都聖母学院中学校・高等学校において「同志社女子大学コース」を設定する新カリキュラムの運用を開始 ※同志社女子大学への教育連携特別推薦入学は2015年度より
	薬学研究科における自己点検・評価の実施	新制度の「大学院4年制博士課程」における研究・教育などの状況に関する自己点検・評価を実施し、その結果を2012年8月31日付でホームページに掲載（文部科学省にも提出）
	「同志社女子大学の集い2012」開催	岡山（6月9日）、熊本（6月10日）、金沢（7月1日）、東京（9月22日）、名古屋（9月23日）
	「ホームカミングデー2012」開催	京田辺キャンパスにて、約750人の卒業生等が参加
	栄光館講堂改修 シャンデリア奉献	改修に併せ、講堂のシャンデリア照明を1932年創建時のオリジナル照明に復元
節電への取り組み	5月14日～9月30日、11月12日～2013年3月31日の間に実施	

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
今出川キャンパス	今出川キャンパス整備事業（耐震対応含む）に係る基本設計、実施設計他	2011年度～2017年度	総事業費58億円のうち2,680万円	第2号基本金
	栄光館講堂空調設備導入等	2012年度	3億3,580万円	学生生徒等納付金、寄付金
	みぎわ寮トイレ改修等	2012年度	2,260万円	
京田辺キャンパス	知徳館照明器具更新等	2012年度	2,350万円	
	頌啓館照明器具更新、トイレ改修等	2012年度	1億690万円	
	聡恵館保育士演習室設置	2012年度	2,290万円	
	受変電設備更新	2012年度	5,510万円	
	自動火災報知機取替等	2012年度	1,540万円	

同志社中学校・高等学校



同志社らしい
高い「志」を持った生徒が
育つ知的創造空間



同志社中学校・高等学校
木村良己校長

同志社を創立した新島襄は、建学の目的として「良心を手腕に運用する人物」の育成を掲げました。この精神は137年たった今も、全くぶれることはありません。画一化したロボットのような人材を生産する「教育工場」ではなく、生徒一人ひとりの「意欲的に学びたい」という気持ちをかき立て、世界を舞台に活躍できる志の高い人物が育つ「知的創造空間」の創出に、教職員の総力を結集して取り組みます。

- DATA**
- 創立 1875年
 - 所在地 〒606-8558 京都市左京区岩倉大鷲町89
TEL : 075-781-7121
 - URL <http://www.js.doshisha.ac.jp/>

高校の新カリキュラムを編成

2013年度高等学校の新学習指導要領改訂に先駆けて、新カリキュラムを12年度から編成しました。これに伴い、高校は1年生(全科目必修)で幅広い学びを通して自らの可能性を探り、2年生(選択科目は約20%)はめざす進路や興味・関心に応じて学び、3年生(選択科目は約50%)は卒業後を強く意識して学ぶという、3年間の学びの流れをより明確にしました。

パワーアップセミナーでは建築家の吉村篤一氏、トライアスロン専用のバイク製作会社を経営する田中信行氏、同志社大学の村田晃嗣法学部教授(現大学長)など、多彩な講師をお招きしました。進路がほぼ確定した高校3年生にとって、素敵な生き方をしている大人たちの有意義なお話を聞いたことは、これからの人生を生きるための1つの指針になったと思います。

グラウンドの人工芝化を実現

国際交流プログラムでは、ヌエバスクールに中学生を6名、ウェスリーカレッジに高校1年生8名を派遣しました。13年度から同志社4高校合同でハワイのプナホウ・スクールに4名(各校1名ずつ)の生徒を派遣するプログラムが立ち上がります。12年度は、その準備にあたりました。

中学校と高等学校が統合して3年が

経過し、建物関係の整備はほぼ完了しました。12年度は、350m全天候型走路のほか、ラグビーやラクロスなどの競技に使用する人工芝グラウンドが完成しました。

13年度入学者の入試実績は、中学の一般入試の志願者は417名、合格者は258名。高校は一般入試と推薦入試の合計で237名の志願者があり、合格者は168名でした。

同志社中学校・高等学校2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員3名	数学科1名、英語科1名、美術科1名
	専任職員1名	
教育・研究	新カリキュラム編成	新学習指導要領改定に伴う改正(高校)
	土曜日特別補講	高校2年生対象(国語・数学・英語)、高校3年生対象(化学・物理)
	パワーアップセミナーの実施	高校3年生対象「特別企画」(将来展望・進路開拓)
	研究誌発行	彰栄35号(教育・研究実践)(中学校)
学生生徒支援	短期交換留学	オーストラリア・ウェスリーカレッジへ派遣8名(高校1年生)・受入11名
	国際交流プログラム	アメリカ・ヌエバスクールへ派遣6名(中学生)・受入5名
	奨学事業の実施	給付14名:四方秀和奨学金(3名)、同志社高等学校特別奨学金(3名)、同志社校友会奨学金(1名)、同志社中学校新島会奨学金(6名)、同志社中学校司鐘奨学金(1名) 貸与5名:同志社中学校桑の実奨学貸付金(5名)
	修学支援事業の実施 奨学金加算給付措置	あんしん修学支援奨学金(給付:114名) 京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業導入に伴い、四方秀和奨学生に対し特別奨学金から教育充実費相当額を加算給付
財政	第2号基本金組入・取崩	第2号基本金1億2,500万円を組入れ 第2号基本金1億2,500万円を取崩し、校地整備に充当

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
校地整備	グラウンド整備、更衣室(北東校地、東グラウンド)等整備、しらすぎ会館整備、ケヤキ広場整備	2012年度~ 2013年度	3億~ 3億5,000万円	第2号基本金、学生生徒等納付金、寄付金
校務システムリプレース	成績系ネットワーク追加、校務端末セキュリティ、システム導入諸経費、推薦サブシステム追加カスタマイズ	2012年度	1,160万円	特定支出準備金(校務システムリプレース準備金)
環境学習設備	太陽光発電設備設置工事	2012年度	1,000万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2012年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	288	293	864	874
高等学校	360	365	1,080	1,063
合計	648	658	1,944	1,937

教員数、職員数(2012年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
86	61	147	13	19	32	179

同志社香里中学校・高等学校



新校舎が完成し、
落ち着いて学べる
環境がさらに充実



同志社香里中学校・高等学校
にしやま けいいち
西山啓一 校長

本校は自治自立の精神に基づく同志社教育を実践することにより、基礎学力の向上と同時に、生徒一人ひとりが持っている潜在能力の開花をめざしており、そのための教育メニューを数多く用意しています。新校舎が完成したことで、生徒がこれまで以上に落ち着いた雰囲気の中で勉強や課外活動に取り組めるようになりました。これが、学力面やクラブ活動の結果に表れ始めていることを実感しています。

DATA	■創立	1951年
	■所在地	〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町15-1 TEL : 072-831-0285
	■URL	http://www.kori.doshisha.ac.jp/

中高一貫教育が活発化

創立60周年記念事業として建設していた新校舎が完成し、2012年9月には高等学校の新校舎の使用が始まりました。新キャンパスは、教員室をはさんで両翼に中学校と高等学校のホームルーム棟を配置。音楽室や美術室、理科実験室などが入る特別教室棟は独立棟とし、中高の生徒が共に利用できるようにしました。中高の一貫教育がより一層効果的に進められ、中学生と高校生のコミュニケーションもさらに深まると期待しています。

また、生徒の安全を確保するため、各校舎の耐震補強工事をすべて完了しました。文化祭などの屋外行事に使用する中庭を整地し、グラウンドやテニスコート、駐車場・駐輪場も整備しました。

課外活動で輝かしい成果

12年度は課外活動でも輝かしい成果を上げました。高校ダンス部が2年連続で全国優勝を果たし、中学ダンス部も西日本大会で優勝しました。「全日本中学校英語弁論大会」では中学3年生の男子生徒が優勝し、軽音楽部は「We are Sneaker Ages」グランプリ大会で準グランプリ校賞とベストサポーター校賞をW受賞しました。ユニークなケースとしては、高校生を対象にした「ハイスクール漫才」で、本校

の男子生徒2人が優勝しました。

13年度入学試験の結果は中学校が

志願者1,065名、合格者415名、高校が

志願者70名、合格者68名でした。

同志社香里中学校・高等学校2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員1名	社会科1名
	教育・研究	海外交流プログラム オーストラリア・アデレード語学研修プログラム(17日間、高校生19名、中学生5名)、オーストラリア・アビンプル校語学研修プログラム(30日間、高校生1名)、アメリカ・ポストン交流プログラム(11日間、高校生14名、中学生38名)、アメリカ・ヌエバスクール交流プログラム(10日間、中学生6名)
	国際交流イベント "The Small Planet 2012"	異文化理解と交流、高校生全員と中学生希望者
	アドバンス講座	国立大学等をめざす生徒対象、外部講師による講義、全25回
	キャリア教育	社会人講師を招き、実践的キャリア教育を実施(中学3年生対象)
	人権アセンブリー	講演とパフォーマンスによる人権教育、中学3年生と高校生全員参加
	福祉体験授業	中学1年生対象、寝屋川市福祉協議会等の協力による車椅子体験学習
入試制度	中学前・後期日程実施	後期日程導入2年目(志願者 前期:363名 後期:702名)
	奨学事業	給付11名:香里中・高奨学金(2名)、香里PTA奨学金(7名)、校友会奨学金(2名)
学生生徒支援	就学支援事業	大阪府私立高校生等就学支援推進校指定による奨学金(高1:118名、高2:102名、高3:49名)
財政	創立60周年記念事業募金	特別教室棟・新普通教室棟等の建設事業のため
その他	オープンキャンパス・体験授業	2回実施(小学4・5年生対象及び小学6年生対象)
	クリスマスセレブレーション	地域住民との交流
	わくわくサイエンスデー	寝屋川市内の小学生向け理科体験授業

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費(2012年度分)	財源
60周年記念事業第1期工事	明誠館・新明誠館解体、新普通教室棟建設工事、尚志館・新尚志館解体等工事	2011年4月～2013年3月	7億8,800万円	学生生徒等納付金・寄付金・法人内資金
60周年記念事業第2期工事	第2グラウンド整備、野球場整備、多目的グラウンド整備、駐車場整備	2011年4月～2013年3月	1億9,100万円	学生生徒等納付金・寄付金・法人内資金
60周年記念事業第3期工事	香友館(部室棟)建替、香真館空調設備工事	2012年1月～2012年11月	1億4,800万円	学生生徒等納付金・寄付金・法人内資金
60周年記念事業第4期工事	讃光館スロープ設置および中庭整備工事	2012年8月～2013年3月	3,200万円	学生生徒等納付金・寄付金・法人内資金
讃光館空調設備改修工事	讃光館空調設備更新および内装改修工事	2012年7月～2013年9月	3,060万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2012年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	254	720	748
高等学校	315	313	945	909
合計	555	567	1,665	1,657

教員数、職員数(2012年5月1日現在)

教員数			職員数		
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計
67	40	107	8	0	8
教職員数			教職員数		
総計			総計		
115			115		

同志社女子中学校・高等学校



DATA ■創立 1876年
 ■所在地 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1
 TEL : 075-251-4305
 ■URL <http://www.girls.doshisha.ac.jp/>

建学の精神を受け継ぐ
 同志社ならではの
 女子教育で隣人愛を育む



同志社女子中学校・高等学校
 つしむら よしみ
 辻村 好 校長

新島襄先生が掲げた「キリスト教主義」は137年の長きにわたって受け継がれ、生徒たちは毎日の礼拝や福祉教育、平和教育などを通して、隣人愛を育んでいます。世のため人のために貢献したいという熱い思いは、医学や薬学、福祉などの多方面にわたるそれぞれの進路へと繋がっていきます。これこそが同志社ならではの女子教育であり、「地の塩」「世の光」となる女性（ひと）が社会へと羽ばたいているのです。

新カリキュラムを実施

2012年度から中学では全学年で、高校では段階的に、新カリキュラムを実施しています。7時間の授業が週3日となり、総授業時間数が週31時間から週33時間に増え、さらなる学力向上をめざしています。

英語、数学の基礎学力の定着を図るため、本校卒業生によるマン・ツー・マンの指導を受けられる「チューター制度」は導入3年目を迎え、追跡調査によれば効果は着実に表れています。

福祉教育をさらに充実

12年度から、6月の「花の日」を全校挙げての「福祉の日」と位置づけ、新たに中学生対象の人権福祉講演会を開きました。高校はこれまで同様、1年生は「花の日礼拝」で講堂を飾った花を、児童養護施設などの様々な施設(24ヵ所)に届けました。また、2年生は高齢者福祉講演会を行い、3年生は車椅子バスケットボールを体験しました。

平和教育としての中学2年生の長崎修学旅行、高校2年生の沖縄修学旅行も例年通り行いました。長崎では被爆者の方の講話をお聞きし、沖縄ではガマ(壕)に入るなど、その地でこそ体感できる学びを大切にしています。

新校舎の建設については、基本設計が完成しました。13年度は一部埋文調

査に着手します。

13年度入学者の入試実績は、後期日程導入2年目の中学では、志願者総数

が前年度を上回り792名、合格者474名でした。高校は定員20名に対して合格者は22名でした。

同志社女子中学校・高等学校2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員5名	英語科2名、理科1名、社会科1名、司書1名
	専任職員1名	
教育・研究	カリキュラム(WR・LA)の変更	新カリキュラムの実施及び週3日7時間授業の実施
	イギリス語学研修	モーバンカレッジへ高校生30名、16日間
	オーストラリア語学研修	シドニー、セントレオズカレッジへ中学生30名、12日間
	アメリカ・ヌエバスクールとの交流	サンフランシスコ、ヌエバスクールへ中学生派遣6名、8日間、受入れ4名、8日間
	TOEIC受験	高校1年生 Bridge、2年生 Bridge、IP、3年生IP
	新入生交流プログラム	中学1年生修養会(2泊3日 ユニピア篠山)
	宗教交流プログラム	中学2年生～高校3年生(1泊2日・びわこリゾートセンター)
	平和教育	長崎修学旅行(中学2年生)、沖縄修学旅行(高校2年生)
	福祉教育	福祉施設、多磨全生園、高齢者施設訪問
	芸術鑑賞	京都市交響楽団の音楽鑑賞(全校生)、狂言鑑賞、中国楽器鑑賞(中学1年生)
チューター制度	本校卒業生の指導による中学生の英語・数学の学力向上	
入試制度	中学 前・後期日程実施	後期日程導入2年目(志願者 前期:334名 後期:458名)
学生生徒支援	奨学金制度	同志社女子中学校・高等学校奨学金(給付4名、貸与4名)
	修学支援事業	あんしん修学支援奨学金(給付79名)
財政	第2号基金組入	教学施設整備資金3億円(新校舎建設、耐震改修)
その他	オープンキャンパス・体験授業	小学5、6年生、父母等参加

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教育環境整備	空調システム保守	2012年度	320万円	学生生徒等納付金
	図書・情報センター BDSシステム改修	2012年8月	170万円	学生生徒等納付金
校地整備	新校舎建設事業に関する基本設計策定	2012年5月～2013年3月	2,740万円	学生生徒等納付金
	栄光館チャペル改修工事	2012年6月～2012年9月	400万円	学生生徒等納付金
	栄光館事務室・総務部事務室統合改修工事	2012年8月	700万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2012年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	254	720	747
高等学校	270	271	810	809
合計	510	525	1,530	1,556

教員数、職員数(2012年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
66	41	107	9	3	12	119

同志社国際中学校・高等学校



- DATA**
- 創立 1980年
 - 所在地 〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷60-1
TEL : 0774-65-8911
 - URL <http://www.intnl.doshisha.ac.jp/>

多様な価値観を持つ
生徒一人ひとりの
成長をバックアップ



同志社国際中学校・高等学校
かわいくになか
川井国孝校長

開校以来、世界各国で様々な体験をしてきた帰国生徒を受け入れてきました。これは、画一的な教育を行うのではなく、多様な文化的背景や価値観を持つ生徒一人ひとりを大切にしてきた本校の歴史といえるでしょう。これからも確かな知識と高い語学力を持つと共に、自分と違う他者の存在を認め、尊重して、お互いに対等の立場で意見交換ができるコミュニケーション能力の高い人材の育成に努めます。

語学力をさらに強化

高いコミュニケーション力を持ち、大学や国際社会で幅広く活躍できる人材を育成することが、本校の目的であり、使命です。その特長をより明確に打ち出すため、中学校の学習指導要領の改訂に合わせ、語学力強化を重視したカリキュラムに変更しました。主な変更内容は、週当たり英語の必修を2時間増やし、英語必修6時間・語学選択2時間にしたこと。語学選択は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語の6つあり、英語を選んだ生徒は週8時間の英語教育を受けます。新カリキュラムは2012年度の入学生から実施しているため、中学1年生から土曜授業を再開しました。

国際交流プログラムでは、12年度に初めて高校生2名がハーバード大学のサマースクールに参加しました。

IBの調査研究委員会を設立

15年度から、同志社国際学院初等部の卒業生を受け入れます。全授業の55%を英語で、国際バカロレア (IB) の主旨に基づく探究型のカリキュラムで学習してきた子どもたちをスムーズに受け入れるため、教育連携の作業を進めています。本校の帰国生徒教育とIBの考え方には、多くの共通点があります。IBに関する調査研究委員会を立ち上げ、本校の教育内容の改善と、

初等部との教育連携のさらなる発展をめざしています。

13年度入学者の入試実績は、中学校の志願者が115名 (海外帰国生徒73名、国内一般生徒42名) で、合格者は

84名 (海外帰国生徒54名、国内一般生徒30名)、高校の志願者が315名 (海外帰国生徒218名、国内一般生徒97名) で、合格者は222名 (海外帰国生徒157名、国内一般生徒65名) でした。

同志社国際中学校・高等学校2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員2名	英語科2名
教育・研究	新カリキュラムの実施	中学1年生より語学力を強化するためのカリキュラムに変更
	校内英語試験の実施	生徒全員が実用英語検定またはTOEFLを受験
	国際交流プログラムの実施 (海外短期研修)	ザ・ヌエバ・スクール交換プログラム (中学生6名)、フィリップス・アカデミー・アンドーバー・サマーセッション (高校生6名)、サマープログラム・イン・アーモスト・カレッジ (高校生15名)、中国青島第二中学 (高校生9名)、メンロスクール交換プログラム (高校生4名)、ハーバード大学サマースクール (高校生2名)、スミスカレッジサイエンス&エンジニアリングプログラム (高校生2名)、ザ・ヌエバスクールサマーカーンプ (中学生8名)
	国際交流プログラムの実施 (留学生受け入れ)	ザ・ヌエバ・スクール交換プログラム (中学生4名)、アラバマ州高校選抜生徒 (高校生21名)、中国青島第二中学 (高校生6名)、韓国Kwandon高等学校 (高校生8名)、メンロスクール交換プログラム (高校生2名)
平和教育	長崎研修旅行 (中学2年生)、沖縄研修旅行 (高校2年生)	
新入生交流プログラム	宿泊研修を実施 (中学1年生、高校1年生)	
体験学習プログラム	ハチ高原 (中学1年)、南阿波 (中学3年)	
国際バカロレア (IB) についての研究	IBの考え方を本校の教育に活かすための研究を開始	
学生生徒支援	奨学事業の実施	校友会奨学金 (給付2名)、新島奨学金 (給付2名)、海外長期留学奨学金 (給付1名)
	修学支援事業の実施	あんしん修学支援奨学金 (給付49名)
財政	第2号基本金組入	教学施設整備資金 1億円
その他	ホームページリニューアル	情報発信の強化

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
ネットワーク環境整備	校内LAN配線整備	2013年3月	320万円	学生生徒等納付金
校内施設整備	志遠館前渡り廊下塗装・照明器具取替	2013年3月	230万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数 (2012年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	90	85	300	295
高等学校	270	266	810	829
合計	360	351	1,110	1,124

教員数、職員数 (2012年5月1日現在)

専任教員	教員数		職員数		教職員数
	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計
52	63	115	7	2	9
					総計
					124

同志社小学校



DATA	■ 創立	2006年
	■ 所在地	〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町89-1 TEL : 075-706-7786
	■ URL	http://www.doshisha-ele.ed.jp/

自発的に考え、
自ら行動できる、
学びの編集力を養成



同志社小学校
おくのひろゆき
奥野博行 校長

漢字が書けるようになる。英語で話せるようになる。歴史や地理を知る。このように学力を高めていくことはもちろん必要ですが、それ以上に大切なことは自発的に考え、学んだ内容を取捨選択し、必要なものを随時取り込んで自分のものにしていく「学びの編集力」を身につけることです。何事にも積極的にチャレンジする心や、問題解決能力を育む「道草教育」を引き続き実践し、のびやかな児童を育成します。

同志社人の思いを刻む宿泊体験学習

宿泊体験学習では2012年度も、5年生は新島襄がアメリカに向けて出国した北海道・函館市に、6年生（修学旅行）は襄が学んだアーモスト大学やボストンを訪れました。5年生は函館で礼拝を行い、6年生はアーモスト大学出身の第30代大統領と襄の肖像画が正面の左右に飾られているジョンソンチャペルで礼拝の時を持ちました。こうした体験によって子どもたちは、同志社人であるという思いをしっかりと胸に刻んだようです。

5年生はこのほか、農家に宿泊して農業体験をし、6年生は新島ゆかりの地を訪ね、現地の小学生とも交流を楽しみました。1年生から4年生の宿泊体験学習も、例年通りの形で行いました。本校の教育を特徴づけている「道草研究」や、夏休みに行っている「理科の自由研究発表会」はすっかり定着しました。実験を通じて、自分自身の思考を鍛え、「科学を楽しむ心」を養う絶好の機会となっています。

大災害に備えて食糧などを備蓄

また4年生以上を対象に、音楽公演と教育活動を行う非営利団体「ヤングアメリカンズ」のワークショップを行いました。国際交流では、同志社大学の留学生が本校を訪れ、子どもたちにハロウィンやイースターについて紹介

し、本校の子どもたちが七夕にまつわる話などを披露しました。こうした取り組みにより、子どもたちの「多様な文化を受け入れる心」が大きく育ってくれることを願っています。

ハード面では、東日本大震災のような大災害が発生すると、帰宅できない

子どもが大勢出てくることが予測されます。そこで、食糧や毛布、救急医薬品などを備蓄し、簡易トイレを準備しました。また、子どもたちの安全を守るため13年度に、登下校安全管理システムの更新を計画しています。12年度は、その準備にあたりました。

同志社小学校2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	教諭（常勤講師）1名	育児休業の教員に代わり、教諭（常勤講師）を1名増員
教育・研究	宿泊体験学習	1年生：学校（1泊2日）、2年生：アクトバル宇治（1泊2日）、3年生：ハチ高原（2泊3日）、4年生：一里野高原スキー（3泊4日）、5年生：北海道（4泊5日）、6年生：修学旅行が宿泊体験学習を兼ねる
	修学旅行	6年生：アメリカ合衆国（アーモスト、ボストン）
	水泳教室	継志館プールを使用して開催（7月23日～26日）
	同志社タイム	各界で活躍する同志社卒業生・在校生などを招き、本物に触れ感性を磨く体験学習を実施 ※2012年は、下記Young Americansを実施
	国際交流・国際理解教育	同志社大学の留学生を招き、英語の授業を中心に児童と交流を深める活動を実施
	Young Americans（ワークショップ）	4年生から6年生を対象に、音楽公演と教育活動を行う非営利団体（Young Americans）のMusic Outreach（ワークショップ）を実施
学生生徒支援	奨学事業の実施	同志社小学校奨学金（給付2名）
財政	同志社小学校教育支援及び施設・設備整備資金募金	一口20万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
情報環境整備・維持	事務用情報機器の更新・運用	2012年9月～2017年8月	4,040万円	学生生徒等納付金、寄付金
非常用食料等配備	災害時用備蓄食料等の整備	2012年度	320万円	学生生徒等納付金、寄付金
はね上げ式作品乾燥棚	国語科（書写）必要備品の整備	2012年度	30万円	学生生徒等納付金、寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、児童数（2012年5月1日現在）

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
小学校	90	88	540	537

教員数、職員数（2012年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
30	14	45	2	1	3	48

同志社国際学院



一人ひとりの
子どもを大切に
する
教育を
実践



同志社国際学院
にしざわよしな
西澤由隆 校長

同志社国際学院は、同志社の教育理念を分かりやすく表現した「Learning for Life, Learning for the World, Learning for Love」をモットーに掲げています。『きみのかわりはどこにもいない』という聖書の内容を基にした絵本があります。この話のように、私たち教職員は子どもたちが迷わないように見守り、もし迷ったとしても必ず迎えに行きますので、安心して学校生活を送ってください。

DATA	■ 創立	2011年
	■ 所在地	〒619-0225 京都府木津川市木津川台7-31-1 TEL: 0774-71-0810
	■ URL	http://www.dia.doshisha.ac.jp/

初等部でもPYPの申請を準備

本校は文部科学省から教育課程特例校に認定された初等部(小学校)と、インターナショナルスクールの国際部(DISK)の2つの学校から成り立っています。DISKは2012年3月に国際バカロレア機構(IBO)から正式にディプロマ・プログラムの認定を受け(対象は11年生・12年生)、エレメンタリースクールも12年1月にPYPの候補校になりました。

初等部でもPYPの候補校になるためのカリキュラムを編成し、申請の準備に取り組みました。具体的には、国際バカロレアが推奨している「考えながら学ぶ」探究型の教育をより強化しました。初等部がPYPの認可を受けると2つの併設校の交流が深まり、教育効果はさらに高まると期待しています。

他校とのスポーツ交流を開始

開校2年目を迎えた12年度は、他校とのスポーツ交流を積極的に進めました。国際部が「西日本アスレチック・アソシエーション」に加盟し、バスケットボール部は関西地区にある他のインターナショナルスクールと交流試合を行いました。

初等部では、授業の55%を英語で行っている成果が随所に表れています。毎日の礼拝では、1年生から4年生までの子どもたちが、日本語と英語でしっ

かりと大きな声で、賛美歌を歌うことができました。

クリスマスの時期には、近隣の方々にもツリーのライトアップを楽しんで

いただきました。また校外学習では、山城木津郵便局や相楽中部消防組合を訪問するなど、地域との交流を深めました。

同志社国際学院2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	新入生・編転入生入学	初等部: 4学年240名(定員) 4学年×60名、8クラス 国際部: 12学年120名(定員) 12学年×10名、12クラス
教職員採用	初等部教諭5名	初等部教諭: 計16名
	国際部教諭7名	国際部教諭: 計21名
教育・研究	TIEサポートスタッフ6名	
	IBワークショップ参加	初等部: 海外1名、国内3名、オンライン3名 国際部: 海外4名、国内19名、オンライン5名
	宿泊体験学習	初等部: 1年学校、2年滋賀、3年三重、4年美山・宮津 国際部: エレメンタリー滋賀、G4-G5三重、エレメンタリー・ミドル学校
	初等部校外学習	1年: 木津川市立図書館等 2年: 山城町森林公園、相楽木綿伝承館、山城木津郵便局 3年: 橿原市昆虫館、国立民族学博物館 4年: 京都府警、相楽中部消防組合、加茂プラネタリウム館、木津川上流浄化センター、祇園祭、山城町森林公園
	国際部校外学習	国立民族学博物館、G1-G2: 山城木津郵便局、ミドル・ハイ: 箱館山スキートリップ等
	After School English Support (初等部)	放課後、希望者に対して実施、Basicと応用のグループに分かれて学習
入試制度	編転入、2013年度新入生の入学考査	初等部 秋・冬・春学期入学編転入試、新1年生入試(1枠、D枠) 国際部 随時実施
学生生徒支援	スクールバス増便	祝園駅(登校時3便、下校時4便)、学研奈良登美ヶ丘駅(登校時2便、下校時2便)
財政	初等部教育支援および施設・設備整備資金募金	一口20万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
ICTシステム追加整備	PC追加、サーバ増強等	2012年4月、8月	1,500万円	学生生徒等納付金、寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、児童数(2012年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
国際学院	初等部	60	60	240	205
	国際部 Glade1~12	120	46	120	46

教員数、職員数(2012年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
33	0	33	2	1	3	36

同志社幼稚園



DATA ■ 創立 1897年
 ■ 所在地 〒602-0836 京都市上京区今出川通寺町
 西入常盤井殿町 543-1
 TEL : 075-251-4391
 ■ URL <http://kinder.doshisha.ac.jp/>

良心教育を強化し、
 親子と幼稚園で
 社会貢献に取り組む



同志社幼稚園
 堂腰きみ子 園長

幼児教育には協調性や自立心、共感と合わせて、友だちと共に行動する「共汗」が必要です。また自ら感じ、考え、それを発言できることも大切です。こうした力を養うには、「心情」「意欲」「態度」の3つのつながりが欠かせません。心が揺さぶられて「心情」が生まれ、「面白そう」「やってみたい」という思いが「意欲」となり、自らが良いと思える態度や行動がとれるように、教育内容を充実させました。

道徳的な教育を実践

2012年度は「キリスト教主義」に基づき、全園児を対象にした合同礼拝の時間を増やしました。聖書の話やキリスト教精神に結びつく道徳的な話をし、それを聞いた園児たちは「どう思ったか」を出し合いました。さらに、その話を家の人に伝え、家の人からどう思ったかを聞いてきてもらい、三者一体となって取り組みました。家庭と幼稚園が連携して道徳的な教育を実践したことで、子どもたちは自ら感じ考えるようになりました。

また、電車の中で高齢者に自発的に席を譲る社会的マナーなど、社会生活の中でどのような態度や行動をとるべきかを覚えていきました。自分が聞いた話を他者にも伝えられるようになり、聞く力も身につけました。

社会貢献を通して人間力を育む

建学の精神である「良心教育」を強化するため、保護者の協力を得ながら社会貢献に取り組みました。ペットボトルのキャップや古切手を集め、園児はキャップを数えたり、切手を仕分けたりしました。全園児でクッキー2,000個を焼いて保護者に買ってもらう、収益金を東日本大震災で被害に遭われた福島の子供たちに読んで聞かせました。

人のために尽くしたことで人が喜んでくれると感じ、人間力を育むことができました。

社会貢献をバックボーンにした教育の一環として、年少・年中・年長組の縦割りで「掃除隊」「飾り隊」「ダンス班」「大工班」に分かれて活動するチャレンジ体験も実施。園児一人ひとりに合ったものにチャレンジしてもらいました。掃除隊はほうきを持って地域に出て掃除をし、飾り隊はいろいろな飾りを作って近隣の商店街や病院に届けました。ダンス班では自分を表現する力をつけ、

発表の場で大きな拍手をもらいました。大工班では、机や花壇の柵などを完成させてみんなに使ってもらうことで、達成感を覚えました。

在園児を対象にした預かり保育の利用率は高く、特にお料理と体育の体験や製作などができる特別プログラムの日は、利用が多くなりました。引き続き絵本に親しめるように、新たなログハウスを設置して本棚を設け、図書の種類も増やしました。本を借りることを通じて園児は、自分で責任をもって返却することも学びました。

同志社幼稚園2012年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用 教育・研究	嘱託教諭 1名	預かり保育等の充実に伴い増員
	預かり保育の充実	全園児を対象に、週2回から週3回に増加して実施
	未就園児教室の充実	地域の未就園児を受け入れて教育指導を行う未就園児教室の開催に重点的に取り組み、在園児との交流等様々な体験を通して子供の成長を促すと共に、地域の子育てを支援(年間59回実施)
	縦割保育の充実	全園児を縦割りにしたクラスを編成し、午後からそのクラスで保育を行うことにより、異なる年齢の交流及び互いに支えあいながらコミュニケーションを深める心情的な育ちを目的として実施
財政	指示行動の強化	一人ひとりの行動や聞く力などを確立し、園児に意欲や関心を持たせる保育の充実
	第3号基本金組入	教育基金1,000万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
園舎耐震事業	園舎の耐震診断を実施	2013年1月	80万円	学生生徒等納付金
園庭整備事業	ログハウス設置	2012年12月	60万円	学生生徒等納付金、補助金、寄付金
	折りたたみプール更新	2012年8月	20万円	寄付金
園舎改修事業	玄関改修工事	2012年10月	80万円	学生生徒等納付金、補助金

入園定員、入園者数、収容定員、園児数(2012年5月1日現在)

	入園定員	入園者数	収容定員	在籍者数
幼稚園	30	30	100	90

教員数、職員数(2012年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
3	5	8	0	0	0	8

特集 1

教学体制の再編

新しい学びの形を追究する

新校舎が今出川校地に完成

同志社大学の今出川校地に2012年10月、新しい校舎が2棟完成しました。今出川キャンパスの「良心館」と、烏丸キャンパスの「志高館」です。教学体制を再編する「今出川校地整備事業」の一環として建設したものです。同志社大学には、「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」という新島襄の言葉を刻んだ「良心碑」が建っており、同志社大学はこの言葉に象徴される「良心教育」を、建学の精神としています。今出川キャンパスの新棟は、大学教育の新たなスタートを象徴するものです。そこで、新棟の名前を良心館としました。

新しい学びに対応する良心館

良心館は、教室や研究室、学生の自習室、ラーニング・コモンズなどを備えており、地下2階・地上5階（延床面積約4万m²）の規模を誇ります。最大の特長は、日本の大学で最大級のラーニング・コモンズ（延床面積約2,550m²）を整備したことです。

大学における「学び」は、整理された知識を一方向的に吸収する形から、自ら問題を発見して解決する形へと大きく変わっています。ラーニング・コモンズは、こうした新しい学びの形を追究する施設です。建物中央部の2階と3階に、学生同士が交流して相互に啓発する空間（クリエイティブ・コモンズ）と、アカデ

ミックススキルを育成する空間（リサーチ・コモンズ）を設けました。

クリエイティブ・コモンズには、大がかりなセミナーやイベントが開催できるスペース、ポスターセッションやワークショップなどが開催できるエリア、グループ学習や懇談ができるコーナーなどを配置しました。リサーチ・コモンズでは、学習支援スタッフから、情報探索の方法やプレゼンテーションの技法などのスタディスキルの指導を受けることができるエリア、プロジェクト活動などで活用できる学習空間を作りました。

志高館は「国際主義」の象徴

同志社の校名は、「志を同じくする者が集まって創る結社」に由来します。「同志社の門をくぐったすべての学生に、志を高めてもらいたい」という願いを込めて、新島襄が「同志社大学設立ヲ要スル主意」の中で使った言葉「人生ノ志操ヲ高尚ニシ」を用いて、烏丸キャンパスの新棟を「志高館」と名付けました。

その志高館は教室や研究室、学生の自習室、ラーニング・スタジオなどを備えており、地下1階・地上3階（延床面積約1万6,800m²）の規模になります。志高館が立つ烏丸キャンパスは、大学院の総合政策科学研究科やグローバル・スタディーズ研究科のほか、国際教育インスティテュート（英語による授業の履



日本の大学で最大級のラーニング・コモンズ

修だけで学士の学位が取得できるコース）の拠点となっています。2013年4月に開設された「グローバル地域文化学部」も入っています。烏丸キャンパスに新設された志高館は、同志社大学の「国際主義」を象徴する校舎といえます。

ハードとソフトの連携を推進

良心館と志高館の完成によって、同志社大学の文系8学部・10研究科が13年4月に、今出川校地に集約されました。その結果、学年進行とともに学習する校地が京田辺から今出川に変わる「2校地体制」が終わり、すべての学年が1つの校地で学ぶ「1校地体制」が完成しました。京田辺校地は「Creative Hill」という名にふさわしい、理工系・文理融合学部など（6学部・6研究科）が集積するキャンパスになりました。今後は実験・実習、フィールドワークを重視した複合的教育や、身体・生命、先端技術、情報に関する国際的な研究を、より一層推進します。それに合わせて13年度から、京田辺校地の整備事業を本格化させます。

教学体制の再構築は、ハードの整備にソフトの充実が組み合わされて初めて完結します。そのため同志社大学は今後も、ハードとソフトの両面で新たな学びの形を創造する取り組みを積極的に進めていきます。



今出川キャンパスの良心館



烏丸キャンパスの志高館

特集2 グラフで見る同志社

※小学校は2006年度から含んでいます。
※国際学院は2011年度から含んでいます。

図1 学生・生徒・児童・園児数



大学は2000年度以降、臨時定員増の解消に伴って学生数が漸減してきましたが、05年度以降、学部増設により増加に転じました。また、国際学院の学年進行によっても学生数が増加しております。

図2 志願者数



大学は2005年度以降、積極的な入試改革や新学部等の展開により、また、女子大学も新学部・学科等の展開により、志願者を安定的に確保してきました。中学校については、12年度にいくつかの学校で実施した新たな入試改革により、志願者数が増加しています。

図3 教員数



教員数は2003年度以降、学部・研究科の新設や研究体制の整備など教学改革の進行に伴って専任、嘱託講師とも増加しています。職員については、定年による退職者を見越して、計画的な採用を行うとともに、非専任の活用や一部業務を外部委託に移行させるなど効率化を進めています。

図4 職員数



図5 専任教員数



新学部・研究科への新規採用と2003年度から開始した大学の教員充実計画により、専任教員数の増加傾向が続いています。

図6 専任教員1人当たりの学生・生徒・児童・園児数



図1の学生生徒数を図5の専任教員数で割ったのがこのグラフで、数値が小さいほど教育研究条件の充実度が高いと考えられます。近年は各校ともほぼ同じ水準を保っております。

図7 留学生数

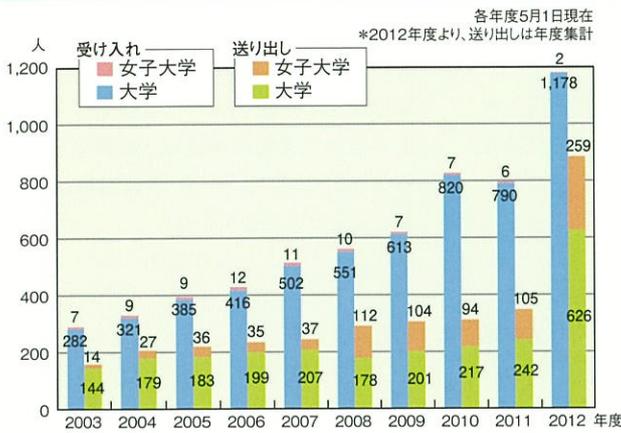
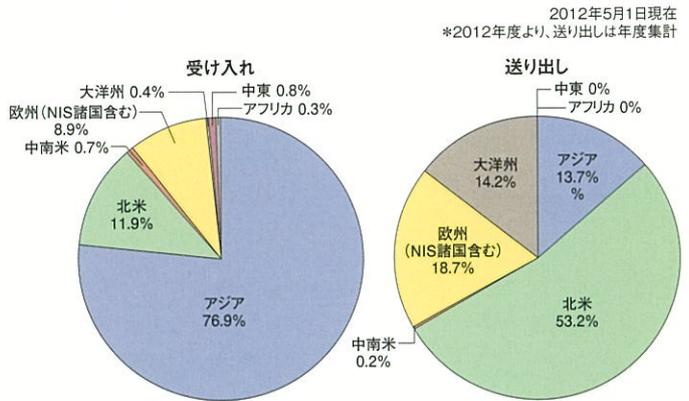


図8 留学生地域別状況



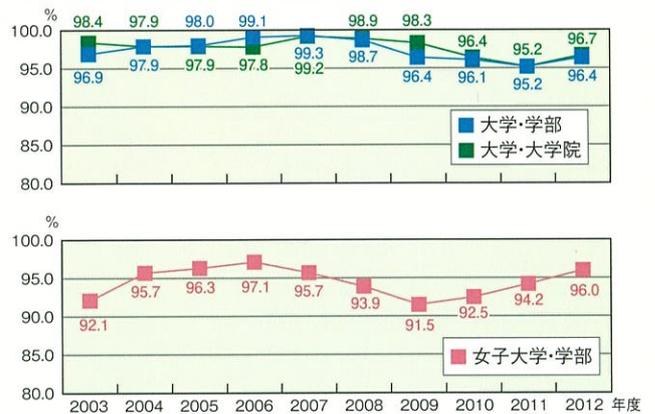
大学の留学生別科の設置や文部科学省の「国際化拠点整備事業(グローバル30)」事業により、留学生の受け入れは着実に増加してきました。送り出しについても、大学における交流協定校の積極的な開拓や女子大学における新学科の開設などにより増加しています。また、2011年度グローバル30中間評価で唯一校最高ランクのS評価を獲得し、12年度、同省の「グローバル人材育成推進事業(グローバル30plus 全学推進型)」の採択につながりました。

図9 学内奨学金



2012年度には、大学において若手研究者育成のための奨学金を新たに設けました。11年度からは、京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業における京都府私立高等学校等授業料減免事業等補助金を活用した奨学金の充実により、給付額が大幅に伸びています。その結果、12年度に初めて総額10億円を突破しました。

図10 就職率(内定率)



就職率(内定率)とは就職希望者数に対する就職決定者数の比率です。景気変動により、年によって若干の低下がみられるものの、近年は上昇傾向に転じています。総じて安定的に高い水準を維持しています。

図11 科学研究費補助金



図12 受託研究費

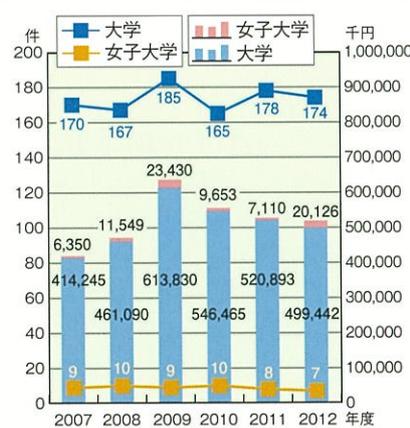


図13 奨学寄付金(研究助成)



折れ線は各研究費の採択・受け入れ件数、棒グラフは金額を表しています。研究分野における産官学連携を促進するため、学内の受け入れ体制を整備したことにより、研究費に対する外部資金の導入は順調に進んでいます。

概況

2012年度は、大学に「脳科学研究科発達加齢脳専攻」を学研都市キャンパスに開設しました。また、京田辺校地では、「スポーツ健康科学研究科」を修士課程から博士課程へ課程変更し、「生命医科学研究科」を2専攻へ再編しました。女子大学では、「薬学研究科医療薬学専攻博士課程」を開設しました。

法人内諸学校の学生・生徒・児童・園児数は、グローバル・コミュニケーション学部の年次進行などにより、昨年度比570名増加の4万2,239名(13年2月末現在)

となり、学生生徒等納付金の安定的収入を確保することができました。

また、大学、女子大学の一般選抜入学試験で安定した入学志願者数を確保するとともに、大学のセンター試験での入学志願者数の増加により、手数料で予算額を上回る増収となりました。

寄付金も大学への奨学金基金あて寄付金や今出川キャンパス新校舎建設資金寄付金、国際学院開設記念寄付金などの増収もあり、帰属収入総額は予算を大きく上回っています。

支出では、経常的な事業支出は節減や執行残などにより減少しました。建設事業では、大学の今出川校地整備事業、女子大学の栄光館設備設置・改修事業、香里中学校・高等学校の普通教室棟建設などの事業を実施しました。

以下、学校法人会計基準に基づく計算書を中心にして、本年度の本学の財政状況を説明します。

(文中、表の金額は、説明のため百万円未満を四捨五入等調整し、百万円単位で表しています。)

資金収支計算書

2012年度法人総合資金収支計算書は表1のとおりです。

〔()内は予算比: +は増加、△は減少〕

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入

468億1,100万円 (+1億6,100万円)

授業料収入は、予算積算時の取納見込額からの差異により、大学で9,100万円、女子大学で4,900万円の増収となるほか、中高、香里中高、国際学院の各学校で増収です。

手数料収入

22億6,600万円 (+2億2,300万円)

入学検定料は、予算計上数に対する入学志願者数の増加により、大学で1億600万円、女子大学で1億700万円の増収のほか、中高、香里中高、女子中高、国際学院の各学校でも増収です。

寄付金収入

10億3,800万円 (+4億9,600万円)

民間企業など、在学生の保護者、卒業生、父母の会、校友会、教職員などからの寄付のほか、奨学金基金宛の寄付、研究助成宛の奨学金寄付や大学の今出川キャンパス新校舎建設資金宛の寄付、国際学院開設記念宛の寄付などにより、大学で予算に対して4億7,400万円の増収、女子大学でも4,000万円の増収となりました。

寄付金明細はファクトブックに掲載しています。

補助金収入

61億600万円 (+7,400万円)

国庫補助金は、日本私立学校振興・共

済事業団などから大学、女子大学への私立大学等経常費補助金、文部科学省から大学への国際化拠点整備事業費補助金、私立学校教育研究装置等施設整備費補助金、大学改革推進等補助金、私立大学教育研究活性化設備整備費補助金などで、予算に対して5,800万円減収の41億4,300万円となりました。

地方公共団体補助金は、京都府や大阪府などから各中高、小学校、国際学院、幼稚園への私学運営費補助金、授業料軽減補助金、また高校授業料無償化に伴う補助金などで、予算に対して1億3,200万円増収の18億3,000万円となりました。

補助金明細はファクトブックに掲載しています。

資産運用収入

9億9,300万円 (+7,400万円)

第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産運用収入及び受取利息配当金は実績により4,200万円の増収、施設設備利用料収入は3,200万円の増収となりました。

資産売却収入

151億7,800万円 (+92億100万円)

第2号基本金引当資産売却収入は、建設事業への充当、第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産売却収入は、満期を迎えた有価証券の償還などによるものです。

事業収入

9億4,500万円 (+1億6,400万円)

企業などからの受託研究による収入、寮費や小学校給食費、国際学院スクール

バスでの収入、外国語講座のセミナー受講料収入などを計上しています。大学・女子大学の受託事業収入は、受託研究契約に基づき1億1,500万円の増収です。

雑収入

12億8,300万円 (+1億400万円)

退職金財団交付金収入は9億2,300万円、大学、中高、小学校、国際学院の各学校での依願退職者の見込みからの増加により3,400万円の増収、競争的資金に係る間接経費などの受け入れなどにより、その他雑収入で7,000万円の増収となりました。

(2) 支出の部

人件費支出

297億7,800万円 (△600万円)

教員人件費は206億7,800万円で、予算に対して5,100万円の増加、職員人件費は73億7,100万円で1億2,500万円の減少となりました。退職金支出は17億300万円で、依願退職者数の見込みからの増加に伴い、6,800万円増加しました。

なお、前年度に比べると、教員人件費は7億2,100万円の増加、職員人件費は1,700万円の減少となっています。

教育研究経費支出

163億3,600万円 (+6億2,000万円)

教育研究費、実験実習費の予算執行残や、消耗品費、旅費交通費で節減や予算未執行もありましたが、建設事業において、予算では施設関係支出などに資本的支出として一括計上していたうち、経費

表1 2012(平成24)年度 法人総合資金収支計算書

(単位:百万円)

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費支出	29,784	29,778	6	学生生徒等納付金収入	46,650	46,811	△ 161
教育研究経費支出	15,716	16,336	△ 620	手数料収入	2,043	2,266	△ 223
管理経費支出	2,503	2,571	△ 68	寄付金収入	542	1,038	△ 496
借入金等利息支出	27	27	0	補助金収入	6,032	6,106	△ 74
借入金等返済支出	349	349	0	資産運用収入	919	993	△ 74
施設関係支出	12,083	9,051	3,032	資産売却収入	5,977	15,178	△ 9,201
設備関係支出	3,513	3,859	△ 346	事業収入	781	945	△ 164
資産運用支出	2,375	11,624	△ 9,249	雑収入	1,179	1,283	△ 104
その他の支出	2,034	2,120	△ 86	前受金収入	9,308	10,143	△ 835
予備費	120	0	120	その他の収入	2,180	2,353	△ 173
資金支出調整勘定	△ 1,406	△ 1,479	73	資金収入調整勘定	△ 10,522	△ 11,467	945
次年度繰越支払資金	20,760	24,182	△ 3,422	前年度繰越支払資金	22,769	22,769	0
支出の部合計	87,858	98,418	△ 10,560	収入の部合計	87,858	98,418	△ 10,560

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した資金収支計算書を掲載しています。

支出となったことに伴う増加により、総額では予算額を上回りました。

なお、前年度に比べると、建設事業費から経費支出への増加が、各事業での節減や予算執行残などを上回り、13億300万円の増加となっています。

管理経費支出

25億7,100万円 (+6,800万円)

消耗品費、旅費交通費、通信費、賃借料、広告費の予算執行残や節減もありましたが、建設事業費から経費支出への増加により予算額を上回りました。

借入金等利息支出

2,700万円 (予算どおり)

過年度に建設した校舎などの建築資金に対する日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の利息支払額です。

借入金等返済支出

3億4,900万円 (予算どおり)

上記借入金の約定返済額です。

施設関係支出・設備関係支出

計129億1,000万円 (△26億8,600万円)

建物、構築物、機器備品、図書、ソフトウェアなどの固定資産取得による支出です。なお、固定資産への計上が必要とされるリース取引にかかるリース料総額を含んでいます。

大学では今出川校地整備事業ならびに

京田辺校地正課・課外併用屋内運動場建設、事務室配置変更工事、女子大学では栄光館設備設置・改修事業、香里中高では創立60周年記念事業である普通教室棟建設工事などを実施しました。

内訳については各校の「事業の概要」の「施設設備整備事業の内容」をご覧ください。

資産運用支出

116億2,400万円 (+92億4,900万円)

有価証券の満期償還に伴う引当資産などの買い替え、また本年度に増額した第3号基本金、減価償却引当資産に対する引当資産への繰り入れです。

学校会計の用語解説

学校法人会計基準に基づいて作成する財務計算書類には大きく分けて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表の3つがあります。

資金収支計算書

当該年度の支払資金の類末、すなわち学校法人の1年間の諸活動に伴うお金の動きを網羅したものです。

消費収支計算書

当該年度の経営状況を表すものです。しかし、企業会計の損益計算書のような利益の測定が目的ではなく、収支の対応や均衡状態を示すことに主眼が置かれています。学校法人の使命は教育研究の持続的な充実発展であることから、財政基盤の安定を重視しているのです。

貸借対照表

一定時点(3月末現在)の財産の状況を明らかにするものです。

計算書で使用する用語とその意味は次のとおりです。

帰属収入

当該年度の収入のうち、学校法人の負債とされない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

基本金組入額

基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基づいて継続的に維持すべき資産で、下記の第1号から第4号に該当するものです。これは帰属収入の中から充当します。これを基本金の組入(くみいれ)といいます。

第1号基本金は自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額、第2号基本金は将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額、第3号基本金は基金の積立額、第4号基本金は恒常的に保持すべきものとされる1カ月分の運転資金相当額です。

消費収入

当該年度の消費に充てる収入で、帰属収入から基本金組入額を差し引いたものです。

消費支出

人件費、物件費、減価償却額、借入金利息など当該年度に消費する支出です。

教育研究経費と管理経費

物件費は、直接教育研究に要するものとして以外の経費に分類します。後者に該当するのは、役員の業務執行、総務・人事・財務・経理その他法人業務、教職員の福利厚生、学生募集、食堂や売店、学寮(全寮制を除く)に要する経費などです。

消費収支差額

消費収入と消費支出の差額で、財政の均衡状態を表します。これがマイナスであると、消費支出超過いわゆる赤字で、収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

消費収支計算書

表2 2012(平成24)年度 法人総合消費収支計算書

(単位：百万円)

消費支出の部				消費収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費	29,525	29,509	16	学生生徒等納付金	46,650	46,811	△ 161
教育研究経費	20,728	21,352	△ 624	手数料	2,043	2,266	△ 223
うち 減価償却額	5,011	5,015	△ 4	寄付金	542	1,411	△ 869
管理経費	2,729	2,797	△ 68	補助金	6,032	6,106	△ 74
うち 減価償却額	225	226	△ 1	資産運用収入	919	993	△ 74
借入金等利息	27	27	0	資産売却差額	478	491	△ 13
資産処分差額	268	443	△ 175	事業収入	781	945	△ 164
徴収不能引当金繰入額	176	154	22	雑収入	1,179	1,283	△ 104
徴収不能額	0	8	△ 8	徴収不能引当金取崩額	0	6	△ 6
予備費	120	0	120	帰属収入合計	58,624	60,312	△ 1,688
				第1号基本金組入額	△ 8,188	△ 5,667	△ 2,521
				第2号基本金組入額	△ 1,325	△ 1,325	0
				第3号基本金組入額	△ 50	△ 51	1
				第4号基本金組入額	△ 50	△ 50	0
				基本金組入額合計	△ 9,613	△ 7,093	△ 2,520
消費支出の部合計	53,573	54,290	△ 717	消費収入の部合計	49,011	53,219	△ 4,208
当年度消費収支差額	△ 4,562	△ 1,071					
前年度繰越消費収支差額	△ 26,099	△ 26,099					
基本金取崩額	0	0					
翌年度繰越消費収支差額	△ 30,661	△ 27,170					

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した消費収支計算書を掲載しています。

2012年度法人総合消費収支計算書は表2のとおりです。

〔()内は予算比：+は増加、△は減少〕

(1) 帰属収入の部

603億1,200万円(+16億8,800万円)

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入などの増収により、予算比2.9%の増加となりました。前年度と比べると、10億7,800万円、1.8%増加となっています。

(2) 基本金組入額の部

第1号基本金組入額

56億6,700万円(△25億2,100万円)

当年度の固定資産増加額は施設及び設備関係支出、現物寄付で132億8,400万円、過年度事業に係る借入金等返済支出は3億4,800万円となりました。一方で施設や設備の更新による当期除却高は28億200万円、過年度に組み入れた第2号基本金からの振替額は51億6,200万円となっています。

第2号基本金組入額

13億2,500万円(予算どおり)

将来に教学施設設備などを取得するため、計画に基づいて資金の組み入れを行いました。

第3号基本金組入額

5,100万円(+100万円)

奨学事業に宛てた寄付金の組み入れや、教育研究事業を継続的に維持するため設定した基金への組み入れなどです。

基本金明細はファクトブックに掲載しています。

(3) 消費支出の部

542億9,000万円(+7億1,700万円)

教育研究費および管理経費は、建設事業における経費支出の増加により、総額では予算額を上回りました。施設や設備の処分や更新による未償却額2億7,000万円や、図書等除却による1億7,100万円を含む資産処分差額が予算を上回りましたが、人件費は予算内に収まりました。消費支出は予算に対して1.3%の増加となり、前年度に比べると18億9,600万円、3.6%増加となっています。

(4) 消費収支差額の部

当年度消費収支差額

△10億7,100万円

帰属収入の伸びが大きかったことから、消費収支差額は依然として支出超過ではあるものの、予算に対して34億9,100万円改善しました。

翌年度繰越消費収支差額

△271億7,000万円

消費収支の推移

図3は消費収支の均衡状態の推移を示したものです。

帰属収入は堅調に増加し、支出では大規模な建設事業を行った年度で基本金組入額が増加しています。

図4、5は帰属収入と消費支出の主な科目の伸び率です。帰属収入では、学生生徒等納付金はなだらかな上昇カーブを描いています。手数料も、安定した入学志願者を確保し上昇しています。事業収入の大きな伸びは、受託研究事業など産官学連携の進展によります。

消費支出では、教育研究活動の活性化を反映して教育研究経費が伸び、学部・研究科の新設や計画的な教員増員により人件費が増加しています。

資産運用のリスクに対応するために

学校法人の資産は教育研究活動を安定的・継続的に支えるための大切な財産であり、資産の運用に際しては、安全性が強く求められます。そのため、学校法人同志社では、資産運用の対象や基準を定めると共に、資金運用委員会を設

け、運用計画の立案、運用状況の管理、運用結果の点検などを行い、その内容を適宜理事会に報告しています。

特に2007年夏以降、米国のサブプライムローン問題を契機に始まった世界的な金融危機によ

り、運用資産(債券)の時価が下落するなど運用リスクが高まったため、「有価証券の評価換え」ならびに「運用債券の損失時の対応」に関する取り扱いを定め、適切な運用管理に努めています。

図1 帰属収入の構成比

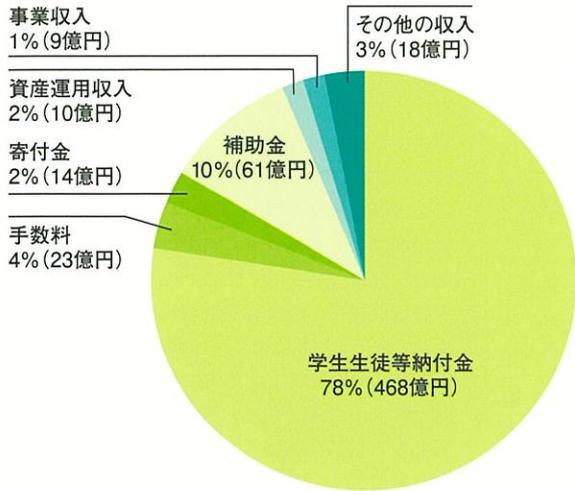


図2 消費支出+基本金組入額の構成比

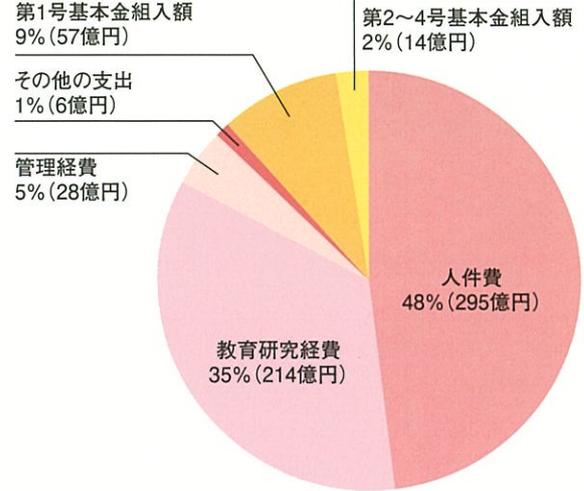


図3 消費収支の推移

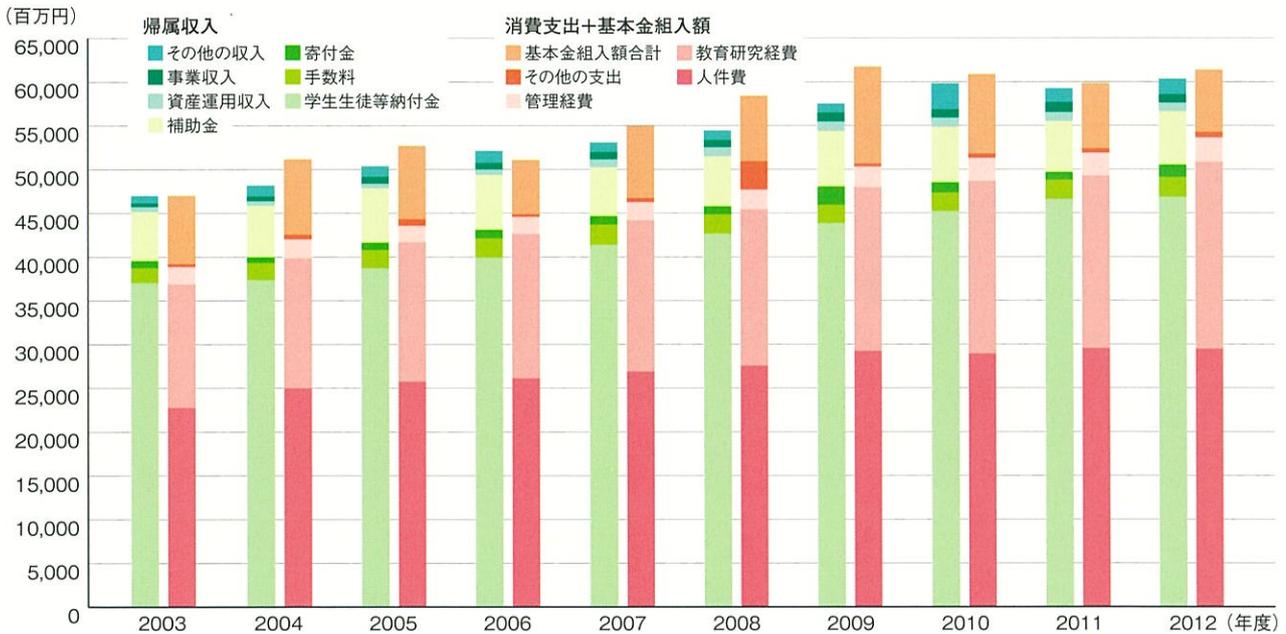


図4 帰属収入の伸び率

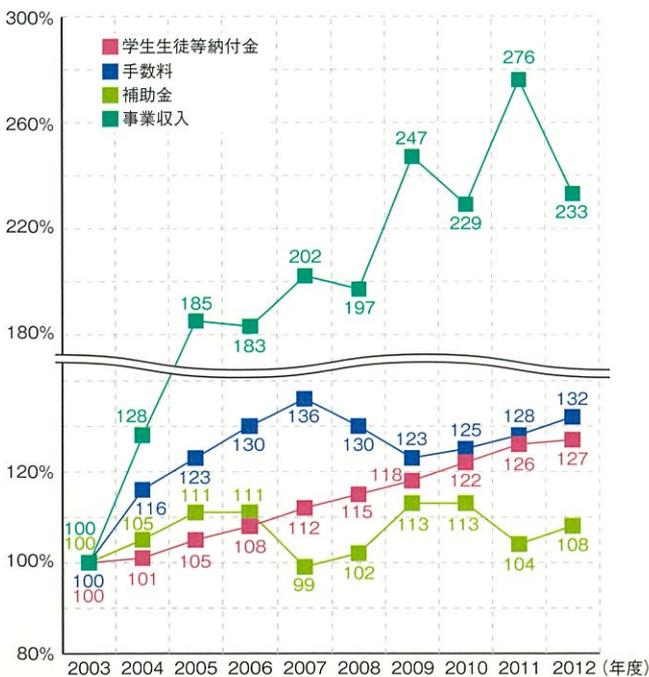
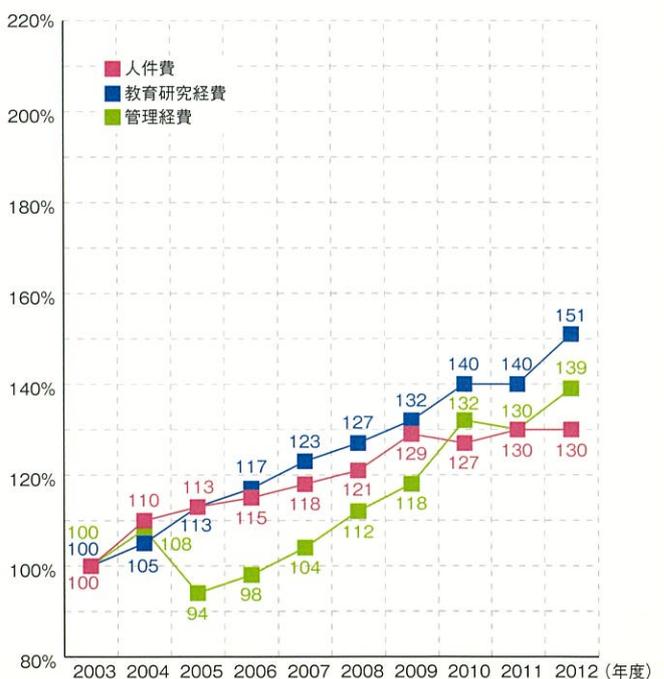


図5 消費支出の伸び率



事業別決算

表3 2012(平成24)年度事業別決算書

(単位:百万円)

事業費項目	合計	内訳		構成比
		消費支出にかかる金額	基本金組入にかかる金額	
人件費	29,509	29,509		47.4%
事業費				
教育研究費	9,200	7,946	1,254	14.8%
学生生徒経費	1,724	1,712	12	2.8%
施設設備整備充実費	1,342	775	567	2.1%
維持運営費	3,561	3,519	42	5.7%
一般管理費	2,546	2,239	307	4.1%
建設事業費(建設勘定)	13,338	2,394	10,944	21.4%
法人経費	447	439	8	0.7%
基本金	1,426		1,426	2.3%
財務費	△6,062	1,405	△7,467	△9.7%
減価償却費	5,241	5,241		8.4%
合計	62,272	55,179	7,093	100.0%

学校別明細はファクトブックに掲載しています。

事業費には次の経費を含んでいます。

教育研究費……消費収支計算書の教育研究経費。ただし、下記で計上する事業費および減価償却費を除く
 学生生徒経費……奨学金、課外活動支援費、学寮に係る経費など

施設設備整備充実費……修繕料、整備費など

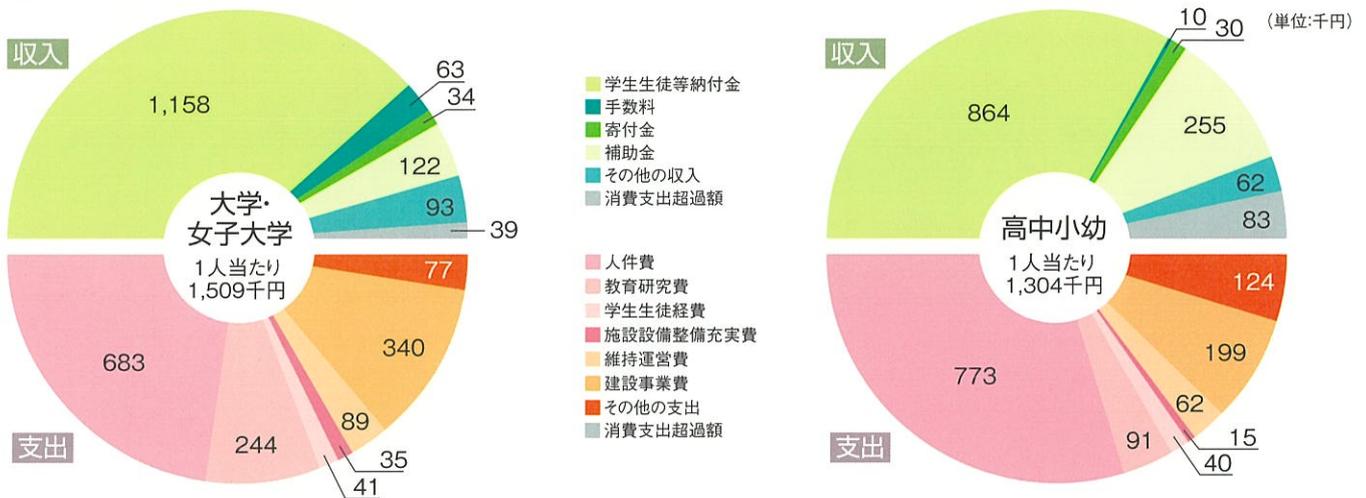
維持運営費……通信費、光熱水費、保守料、清掃委託費、警備委託費用など

一般管理費……消費収支計算書の管理経費。ただし、上記で計上する事業費、減価償却費を除く

基本金……消費収支計算書の第2～4号基本金組入額

財務費……借入金利息、資産処分差額、徴収不能引当金繰入額、現物寄付金、当期除却高、第2号基本金取崩額など

図6 学生・生徒・児童・園児1人当たりの収入・支出



貸借対照表

2012年度法人総合貸借対照表は表4のとおりです。図7は過去10年間の貸借対照表推移をグラフ化したものです。消費収支差額は支出超過であるため、棒グラフの基本金の先端部分に網掛けで表現しており、この部分が資金不足額となります。

(1) 資産の部

固定資産のうち有形固定資産は、教育研究活動の拠点となる土地、建物、構築物や機器備品の整備充実により増加してきました。03年度は大学寒梅館、04年度は女子大学憩水館、05年度は大学臨光館、小学校明心館、07年度は大学医心館、磐上館、08年度は大学継志館の取得、女子大学純正館、高等学校桑志館、恵潤館、09年度は大学多々羅キャンパスの取得、中学校立志館、中学校・高等学校宿志館、10年度は大学烏丸キャンパスの取得、小

学校吉峰館、国際学院抱志館、香里中学・高等学校新特別教室棟、12年度は大学良心館、志高館、香里中学・高等学校尚志館、香友館建設などによるものです。

その他の固定資産は第2号基本金の引当資産、退職給与引当資産を減額、減価償却の引当資産を増額しました。この結果、本年度末の固定資産総額は前年度比2.1%増加の2,099億6,900万円となりました。

流動資産は現金預金、未収入金などで、本年度末は前年度比7.0%増加の264億1,500万円です。

(2) 負債・基本金・消費収支差額の部

固定負債のうち長期借入金は、計画的な返済により着実に減少を続け、残高は10年前の7分の1程度となりました。退職給与引当金は、期末要支給額の100%を引

き当てています。

流動負債は、新入学生費の前受金が大部分を占めています。

基本金は、第1号基本金が自己資金による固定資産の取得と借入金の返済などで前年度比5.6%増加の2,055億8,800万円、第2号基本金は計画に基づく組み入れと建設事業への充当により前年度比39.5%減少の58億8,800万円、第3号基本金は前年度比0.3%増加の190億3,000万円、第4号基本金は前年度比1.4%増加の37億2,700万円となっています。

消費収支差額は、帰属収入が堅調に推移している一方で、大規模な建設事業を自己資金で賄っているため消費支出超過となり、この結果翌年度に繰り越す消費支出超過額は271億7,000万円となりました。

また、減価償却額累計額は716億1,700万円となっています。

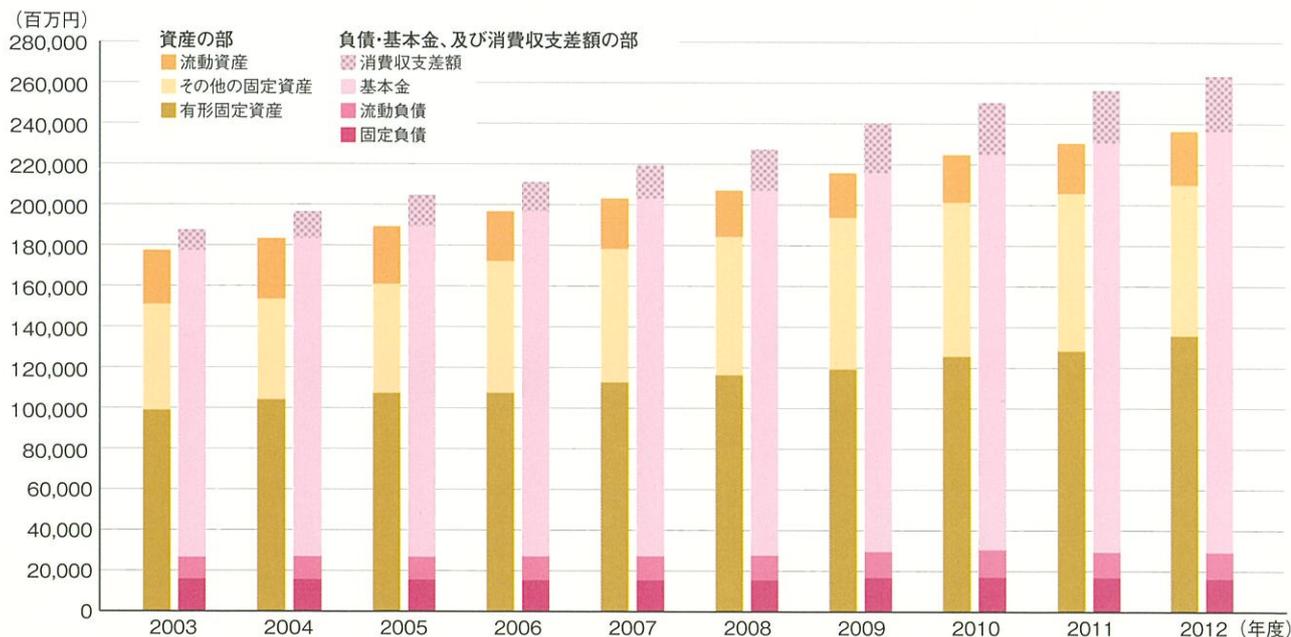
表4 法人総合貸借対照表

2013(平成25)年 3月31日現在 (単位:百万円)

資産の部				負債・基本金、及び消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
[固定資産]	209,969	205,744	4,225	[固定負債]	16,239	16,852	△ 613
(有形固定資産)	135,723	128,146	7,577	長期借入金	760	1,109	△ 349
土地	18,751	18,751	0	未払金	160	149	11
建物	81,699	71,387	10,312	退職給与引当金	15,269	15,538	△ 269
構築物	4,691	3,743	948	教職員年金引当金	31	41	△ 10
教育研究用機器備品	12,811	11,113	1,698	受入保証金	19	15	4
その他の機器備品	202	135	67	[流動負債]	13,082	12,534	548
図書	16,190	15,951	239	短期借入金	349	349	0
車輛・舟艇・航空機	14	17	△ 3	未払金	1,306	1,320	△ 14
建設仮勘定	1,365	7,049	△ 5,684	前受金	10,143	9,684	459
(その他の固定資産)	74,246	77,598	△ 3,352	預り金	1,130	1,006	124
ソフトウェア	285	263	22	修学旅行費預り金	151	153	△ 2
借地権	209	209	0	仮受金	3	22	△ 19
電話加入権	20	20	0	負債の部合計	29,321	29,386	△ 65
施設利用権	21	21	0	[第1号基本金]	205,588	194,759	10,829
有価証券	20	20	0	[第2号基本金]	5,888	9,725	△ 3,837
長期貸付金	5,408	5,679	△ 271	[第3号基本金]	19,030	18,979	51
第2号基本金引当資産	5,888	9,725	△ 3,837	[第4号基本金]	3,727	3,677	50
第3号基本金引当資産	19,030	18,979	51	基本金の部合計	234,233	227,140	7,093
退職給与引当資産	15,269	15,538	△ 269	[翌年度繰越消費支出超過額]	△ 27,170	△ 26,099	△ 1,071
教職員年金引当資産	31	40	△ 9	前年度繰越消費支出超過額	△ 26,099	△ 25,637	△ 462
減価償却引当資産	28,000	27,000	1,000	当年度消費収支差額	△ 1,071	△ 462	△ 609
支払保証金	64	87	△ 23	消費収支差額の部合計	△ 27,170	△ 26,099	△ 1,071
出資金	1	17	△ 16	負債・基本金および消費収支差額の部合計	236,384	230,427	5,957
[流動資産]	26,415	24,683	1,732	減価償却額の累計額の合計額	71,617		
現金預金	24,182	22,769	1,413	基本金未組入額	1,412		
未収入金	1,749	1,538	211				
短期貸付金	0	0	0				
前払金	215	127	88				
仮払金	118	96	22				
修学旅行費預り資産	151	153	△ 2				
資産の部合計	236,384	230,427	5,957				

ファクトブックに、円単位で表示した貸借対照表および学校法人会計基準に基づく注記事項を掲載しています。

図7 貸借対照表の推移



財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。表5、6は本学と全国平均の比較、図8、9は本学の過去10年間の推移グラフです。

消費収支計算書関係比率について本学の指標値を全国平均と比較すると、学生生徒等納付金比率は高く、補助金比率は低めで、学費への依存度が比較的高い収入構造となっています。経費に関する比率では、低い方が良いとされる人件費比率と管理経費比率はともに全国平均内にあります。また教育研究経費比率は教育研究の充実度を表し、高い方が望ましい

とされており、本学は全国平均を上回っています。

学校法人は帰属収支差額の中から基本金組入額を賄うため、帰属収支差額比率は10%以上が望ましいとされています。本学の帰属収支差額比率は、世界的な金融危機の影響を受け、運用資産の評価差額の計上により6.4%となった2008年度を除き、04年度以降10%以上で推移しています。

貸借対照表関係比率では、固定比率や固定長期適合率で土地、施設設備などの固定資産が自己資金で賄えているかどうかを見ます。負債比率や総負債比率は、自己資金に対する負債、すなわち他人資

金の割合です。また、基本金比率は、基本金組み入れの対象となる資産に対して組み入れ済みの基本金がどれだけあるかを示すものです。

流動比率は、各種引当資産の充実と資金運用の効率化を図り、201.9%となっています。また、新規建設事業は借入金に依存せず自己資金で行っており、基本金比率も着実に増加しています。

教学組織の新設、施設設備の充実など活発な教学改革の影響から収支バランスが一時的に崩れる年度がありますが、自己資金の安定的確保、固定資産および基本金の充実、借入金等外部負債の減少の状況が指標値に表れています。

表5 消費収支計算書関係比率

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	77.6	72.7
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↑	2.3	2.3
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↑	10.1	12.4
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↓	48.9	54.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↑	35.4	30.9
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↓	4.6	8.7
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↑	10.0	3.4

表6 貸借対照表関係比率

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↓	101.4	100.1
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↓	94.0	92.2
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	201.9	230.3
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↓	14.2	15.1
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	12.4	13.1
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	99.4	97.1

評価指標 ↑高い値が良い ↓低い値が良い 全国平均:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2011年度数値

図8 消費収支計算書関係比率の推移

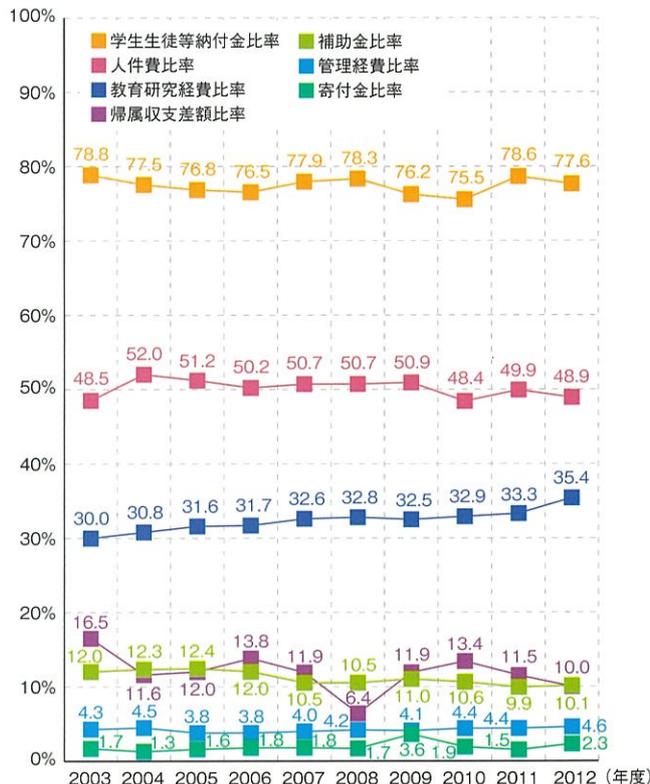
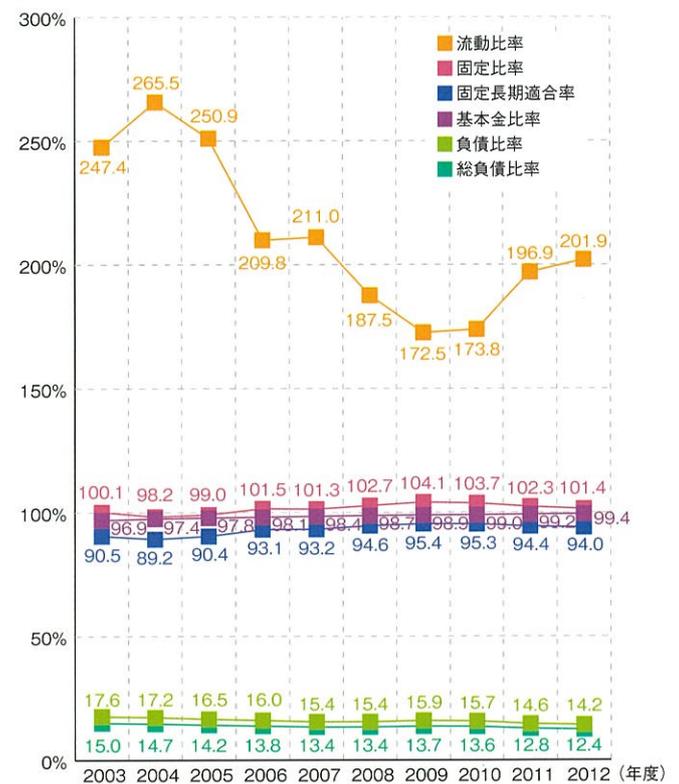


図9 貸借対照表関係比率の推移



学校別の状況

各学校の収支状況を表7「学校別収支計算書」によって説明します。

大学では学生生徒等納付金、入学検定料などの手数料、寄付金、事業収入、雑収入の増収などにより、帰属収入合計は411億9,900万円と前年度に比べて2.1%増加となりました。基本金組入額は今出川校地整備事業、京田辺校地正課・課外併用屋内運動場建設、事務室配置変更工事、香柏館低層棟・高層棟整備事業などの事業を実施し、将来の施設整備のための第2号基本金と合わせて47億8,800万円となりました。

消費支出では、教育研究費及び管理経費は、建設事業において、予算では施設関係支出などに資本的支出として一括計上していたうち、経費支出となったことに伴う増加により、予算額を上回りました。また、資産処分差額においては、欠本図書を除却や固定資産に係る減価償却未償却額などの増額で、合計では376億5,000万円と前年度に比べて6.4%増加となり、この結果、12億3,900万円の消費支出超過となりました。

女子大学では、補助金での減収はあり

ましたが、手数料、寄付金ならびに、評価換え債券の償還差益に伴う繰出金の増収により、帰属収入合計は105億9,600万円と前年度に比べて1.1%増加となりました。基本金組入額は、栄光館設備設置・改修事業を実施し、第2号基本金と合わせて16億1,000万円となりました。

消費支出は、人件費、教育研究経費等の予算執行残により、合計では84億6,400万円となり、前年度と比べ5.5%減となり、この結果、5億2,200万円の消費収入超過となりました。

各中高、小学校、国際学院、幼稚園では、学生生徒等納付金において、中学・高等学校、香里中学・高等学校、国際学院では、前年度に比べて増収となり、他の学校でも前年度並みの収入を確保しています。補助金は、各中高、国際学院では、予算見込額から増収になり前年度を上回りました。繰出金は、国際学院を除く各校において、評価換え債券の償還差益を含み計上しています。基本金組入額は、香里中学校・高等学校で、普通教室棟建設事業などを実施し11億6,000万円、第2号基本金で、中学校・高等学校1億2,500万円、女子中学校・高等学校3億円、国際中

学校・高等学校1億円、第3号基本金で、幼稚園1,000万円を組み入れています。

小学校は、開校以来、支出を収入で賄うことができない収支の不均衡が続きましたが、開校7年目で収支不均衡の解消が進んでいます。

法人部勘定では、各学校の建設事業資金の法人内での資金調達額および償還額を繰入金と繰出金に計上しています。

特別会計では、年金会計、住宅会計を計上しています。

収支計算書について

この計算書は学校法人会計基準による消費収支内訳表の体裁をとりつつも、部門間のみなし配分を避け、内部取引の収支を明らかにする目的で、計上方法を一部変更しています。

すなわち、学校法人部門は大学に、新設学部などの開設前の収支は、それぞれの設置校に含めています。中高、香里、女子、国際の各中学校・高等学校は中高の合計額で、大学附属の小学校、国際学院も独立した部門として表示しています。また、内部取引の各校認識額については繰入金・繰出金に、法人に係る経費の各校分担額は分担金(支出)に計上しています。

表7 2012(平成24)年度 学校別収支計算書

(単位：百万円)

	大学	女子大学	中高	国際中高	香里中高	女子中高	小学校	国際学院	幼稚園	法人部勘定	特別会計	合計
学生生徒等納付金	31,436	9,167	1,746	993	1,269	1,310	536	307	46			46,810
手数料	1,824	369	15	13	23	16	3	2	1			2,266
寄付金	1,103	93	45	47	34	37	31	10	12			1,412
補助金	3,876	398	530	287	477	382	100	34	22			6,106
資産運用収入	675	221	15	8	16	18	6		2		32	993
資産売却差額	491											491
事業収入	725	81		68			64	6				944
雑収入	927	145	62	52	34	57	1	1	6			1,285
繰出金	25	117	24	12	417	15	4	14	1	175		804
徴収不能引当金取崩額		5										5
分担金	117											117
帰属収入合計	41,199	10,596	2,437	1,480	2,270	1,835	745	374	90	175	32	61,233
基本金組入額合計	△ 4,788	△ 1,610	△ 161	△ 155	△ 9	△ 311	△ 8	△ 39	△ 11			△ 7,092
消費収入の部合計	36,411	8,986	2,276	1,325	2,261	1,524	737	335	79	175	32	54,141
人件費	19,483	4,472	1,484	940	1,107	1,103	424	439	57			29,509
教育研究経費	15,757	3,177	679	293	673	279	266	212	16			21,352
管理経費	1,759	727	66	90	57	39	12	47	2			2,799
借入金等利息	11		2	7	5	1						26
資産処分差額	293	2	1		147							443
繰入金	185	1	179		3	4				400	32	804
徴収不能引当金繰入額	154											154
徴収不能額	8											8
分担金		85	10	6	8	8						117
消費支出の部合計	37,650	8,464	2,421	1,336	2,000	1,434	702	698	75	400	32	55,212
当年度消費収支差額	△ 1,239	522	△ 145	△ 11	261	90	35	△ 363	4	△ 225	0	△ 1,071

2013年度の事業計画

■教学組織

大学では、地域横断的な諸問題や現象について学び、21世紀の国際舞台で活躍できる人物を育成することをめざす「グローバル地域文化学部」を烏丸キャンパスに開設します。また、現代生活における健康の増進やスポーツの社会的発展を求める声に応えるため、スポーツ健康科学部の入学定員を増員します。

今出川校地整備事業の完了により、今出川校地は「リベラル・アーツ型教養教育」、「ゼミナールを中心とした専門教育を展開する文系学部の教育拠点」、「専門職大学院や独立研究科等を中心とする高度専門職業人養成の拠点」として、京田辺校地は「実験・実習、フィールドワークを重視する複合的教育拠点」、「身体・生命・先端技術、情報に関する国際的先端研究拠点」として、各校地の特色を明確に位置づけ、教育効果を高めることをめざします。今出川校地は8学部10大学院研究科、京田辺校地は6学部6大学院研究科の教育体制で、新たな第1歩を踏み出します。

女子大学では実践的な特別の専門課程による教授により、音楽に関するより高度な技術と専門知識を備え、音楽を通して社会に貢献することができる人物の養成をめざす「音楽専攻科」を開設します。

■教育研究

大学では大学院教育において、抜本的改革を支援する「博士課程教育リーディングプログラム」の採択を受け、将来の隘路を予測して対策を講じる能力を備えた高度専門職業人養成のためのプログラム

を展開していきます。また、国際化を一層推進するために、新たに採択された「グローバル人材育成推進事業」を通して、グローバル化をさらに加速・充実させ、積極的に世界を舞台にして果敢に挑戦し活躍できる人材の育成を図ります。

女子大学では、卒業までに身につけるべき基礎的・汎用的能力『DWCLA10』の理解、促進を図るとともに、キャリア教育科目の充実を行います。また、英語のスキルアップと異文化理解を主な目的としたセメスター留学制度を新たに開始します。

各中学校・高等学校では、国際感覚豊かで国際社会に貢献できる生徒の育成を目的とした特色ある教育を展開します。

小学校では、ヤングアメリカンズ・アウトリーチプログラムを通して、豊かな感性を養い、個性を認識し、他人の大切さや表現することの大切さ、やり遂げることの素晴らしさを学ぶ機会を設けます。

教育環境面で大学では、学生の主体的な学びを誘発し、質の高い創造的な学習成果を醸成するための仕掛けとして、今出川キャンパス良心館に、日本の大学では最大級のラーニング・コモンズを開設します。

■学生生徒支援

大学では、校地間移動手段や課外活動、学生交流の活発化を促すため、無料シャトルバスを導入します。また、障がい学生支援の充実にも引き続き取り組みます。

女子大学では、勉学に励み、かつ課外活動等において活躍した学生を表彰する「同志社女子大学特別奨励賞」を創設します。

また各高等学校では、修学を支援する奨学金の支給により、生徒が安心して勉学を続けられる施策を講じます。

■建設事業

大学では弘風館、明德館、至誠館の耐震改修、ハリス理化学館のギャラリー整備、スポーツ健康科学部定員増に伴う磐上館の増築、歴史資料館収蔵庫移転による改修などを実施するとともに、複合的研究施設及び宗教教育施設の建設にも着手します。

女子大学では、今出川キャンパス整備事業の第一段階として新心館の解体を実施します。

中学校・高等学校では東グラウンドの整備、国際中学校・高等学校では国際学院初等部卒業生の受け入れに向けた校舎増築、女子中学校・高等学校では新校舎建設事業の着手、幼稚園ではトイレや手洗い場等の改修を行います。

■その他の事業

大学及び女子大学では大学基準協会に認証評価申請を行い、評価結果を諸活動の改善に役立てさらなる発展をめざします。防災に向けた取り組みとして、年次計画を立てて防災用備蓄品を整備します。

国際学院では学年進行に伴う生徒数の増加に伴い、スクールバスを増便します。

法人事業としては、NHK大河ドラマ「八重の桜」放映に伴う見学者の増加に対応するため、「新島旧邸特別公開」を実施します。また、企画展や講演会などの関連事業を通じて、同志社の認知度を高める機会とします。

表8 2013(平成25)年度以降の収支見通し

(単位：百万円)

収入の部	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
学生生徒等納付金	45,901	47,220	47,048	46,994
手数料	2,062	2,016	2,016	2,016
寄付金	378	494	459	459
補助金	5,726	5,851	5,856	5,856
資産運用収入	814	840	850	859
事業収入	574	574	574	575
雑収入	984	802	544	439
帰属収入合計	56,439	57,797	57,347	57,198
基本金組入額合計	△ 6,181	△ 4,666	△ 4,147	△ 3,278
消費収入の部合計	50,258	53,131	53,200	53,920
人件費	29,998	29,918	29,283	29,281
教育研究経費	21,317	20,883	21,090	21,218
管理経費	2,646	2,556	2,559	2,559
借入金等利息	20	14	9	6
資産処分差額	273			338
徴収不能引当金繰入額	151	79	79	79
予備費	350			
消費支出の部合計	54,755	53,450	53,020	53,481
基本金取崩額				447
当年度消費収支差額	△ 4,497	△ 319	180	886

理事、監事、評議員

理事(○印 理事長)

大谷 實(総長)
 村田 晃嗣(大学長)
 加賀 裕郎(女子大学長)
 宮本 義信 ○水谷 誠 (学校長等互選)
 濱 直樹 宮庄 哲夫 中村 友二 西山 啓一
 西澤 由隆 余田由香利 横井 和彦 (評議員互選)
 井上 礼之 西村 公雄 立石 義雄 (学識経験者)

監事

長谷川正治 畑 肇 岩山太次郎

評議員(○印 議長)

○雨谷 昭弘 今川 一彦 伊東 徳治 松尾 博文
 宮崎 與也 宮庄 貴之 中村 信博 西川 真司
 西澤 由隆 瀬川 貴之 園田 毅 鋤柄 俊夫
 恒岡 清 鶴飼 哲夫 横井 和彦 (教職員互選)
 福永 晃三 船越 照平 濱 直樹 木村 健二
 南 美樹 中村 公紀 中村 友二 坂 光司
 上野 道雄 山下 泰生 柳井 繁彌 (校友会選定)
 阿部登茂子 村田 良子 西原恵美子 余田由香利 (同窓会選定)
 浅香 正 藤倉皓一郎 児玉 實英 三浦 竹泉
 望月 修治 西山 啓一 大橋 寛治 (理事会選定)

2013年4月現在

沿革

1875(明治8)年11月29日 官許「同志社英学校」を開校
 新島襄初代社長に就任
 1876(明治9)年9月 今出川校地(相国寺門前の薩摩藩邸跡)に
 校舎、食堂を建て寺町から移る
 10月 京都御苑内の旧柳原邸
 (現・京都迎賓館の一部)で女子塾を開設
 1877(明治10)年4月 同志社分校女紅場を開設
 9月 女紅場を同志社女学校と改称
 1883(明治16)年2月 「同志社社則」を制定
 1884(明治17)年4月 新島、2度目の海外旅行に出発(翌年12月帰国)
 9月 同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工
 (国の重要文化財)
 1886(明治19)年6月 新礼拝堂(チャペル)竣工(国の重要文化財)
 1887(明治20)年11月 書籍館(現・有終館)開館(国の重要文化財)
 同志社病院・京都看護婦学校の開院、開校式
 1888(明治21)年11月 「同志社大学設立の旨意」を
 全国の主要雑誌・新聞に発表
 1890(明治23)年1月23日 新島、静養先の神奈川県大磯にて永眠(46歳)
 7月 アメリカの実業家J.N.ハリスの10万ドルの
 寄付によるハリス理化学館竣工
 (国の重要文化財)
 9月 ハリス理化学校開校
 1891(明治24)年9月 政法学校開校
 1892(明治25)年6月 [女学校] 本科を普通科、高等科を
 専門科(師範科、文学科、神学科)に改める
 同志社徽章(校章)を制定
 1893(明治26)年10月 神学館(現・クラーク記念館)
 1894(明治27)年1月 開館式(国の重要文化財)
 1896(明治29)年4月 普通学校を同志社高等普通学校と改称し、
 新たに同志社尋常中学校を開校
 1897(明治30)年3月 M.F.デントン、出町幼稚園
 (現・同志社幼稚園)を開園
 1900(明治33)年 出町幼稚園を今出川幼稚園と改称
 1901(明治34)年3月 [女学校] 普通科を高等普通部と改め、
 新たに専門学部を設置
 1904(明治37)年4月 専門学校令による神学校と専門学校を開校
 政法学校廃校
 1906(明治39)年4月 同志社病院・京都看護婦学校閉鎖
 ハリス理化学校廃校
 1908(明治41)年 同志社カレッジソングができる
 1912(明治45)年4月 専門学校令による同志社大学
 (予科、神学部、政治経済学部、英文科)、
 女学校専門学部(英文科、家政科)を開校
 1920(大正9)年4月 大学令による同志社大学
 (文学部、法学部、大学院、予科)の開校
 1922(大正11)年4月 専門学校令による大学を専門学校
 (神学部、英語師範部、高等商業部、
 政治経済部)として再編成
 1928(昭和3)年1月 [女学校] 普通学部を女学校高等女学部と改称
 1929(昭和4)年4月 [専門学校] 高等商業部を岩倉に移転
 1930(昭和5)年6月 [女学校] 専門学部を女子専門学校と改称
 9月 [女学校] 普通学部を高等女学部と改称
 12月 [専門学校] 高等商業部を高等商業学校と改称
 1943(昭和18)年4月 中学校令による中学校開校
 1944(昭和19)年4月 工業専門学校
 (電気通信科、機械科、化学工業科)開校
 1947(昭和22)年4月 新学制により新制中学校、女子中学校発足
 1948(昭和23)年4月 新制大学(神学部、文学部、法学部、経済学部)
 新制高等学校、新制定時制商業高等学校、
 新制女子高等学校を設置
 1949(昭和24)年4月 商学部と工学部を新設し、大学は六学部となる
 女子大学(学芸学部)開校
 高等学校が岩倉校地へ移転
 1950(昭和25)年4月 [大学] 大学院修士課程
 (神・文・法・経済・商各研究科)を開設

1950(昭和25)年4月 [大学] 短期大学部(夜間2年制)
 (英語・商経・工各学科)開設
 1951(昭和26)年3月 [大学] 教養学部解散(1948年4月発足)
 9月 香里学園を合併し、香里中学校、
 高等学校を開校
 1953(昭和28)年4月 [大学] 大学院博士課程開設
 1954(昭和29)年4月 [大学] 短期大学部を発展的に解消、大学2部(4年制)
 (文・法・経済・商・工各学部)開設
 1955(昭和30)年4月 [大学] 工学研究科修士課程開設
 1967(昭和42)年4月 [女子大学] 文学研究科修士課程開設
 1968(昭和43)年4月 [女子大学] 家政学研究科修士課程開設
 1975(昭和50)年 創立100周年を迎え、記念事業を行う
 4月 [女子大学] 文学研究科博士後期課程開設
 1976(昭和51)年3月 商業高等学校廃校
 1980(昭和55)年4月 国際高等学校開校
 1986(昭和61)年4月 田辺校地(現・京田辺校地)開校
 大学・女子大学の授業開始
 [女子大学] 短期大学部開設
 国際中学校開校
 1988(昭和63)年4月 [女子大学] 学芸学部(日本語日本文学科)開設
 1989(平成元)年4月 [大学] アメリカ研究科開設
 1991(平成3)年4月 [大学] 工学部、及び工学研究科、
 理工学研究所を田辺校地
 (現・京田辺校地)に統合移転
 1995(平成7)年4月 [大学] 総合政策科学研究科開設
 1997(平成9)年4月 [大学] 昼夜開講制を実施
 1999(平成11)年4月 [大学] 留学生別科開設
 2000(平成12)年 創立125周年を迎え記念事業を行う
 4月 [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止
 [女子大学] 学芸学部(情報メディア学科)開設
 [香里中学] 共学化
 2002(平成14)年4月 [大学] 政策学部開設
 工学部に情報システムデザイン学科、
 環境システム学科開設
 司法研究科(法科大学院)開設
 ビジネス研究科(ビジネススクール)開設
 [女子大学] 現代社会学部に
 現代こども学科開設
 国際社会システム研究科開設
 2005(平成17)年 創立130周年を迎え記念事業を行う
 4月 [大学] 文学部・文学研究科を再編して
 社会学部・社会学研究科開設
 文化情報学部開設
 [女子大学] 薬学部開設
 同志社小学校開校
 2006(平成18)年4月 [大学] 文化情報学研究科開設
 2007(平成19)年4月 [女子大学] 学芸学部(国際教養学科)開設
 [大学] 生命医科学部開設、スポーツ健康科学
 部開設、工学部を再編し理工学部開設、
 理工学部に数理システム学科開設、
 生命医科学研究科開設
 2009(平成21)年4月 [大学] 心理学部・心理学研究科開設
 [女子大学] 表象文化学部開設
 2010(平成22)年 創立135周年を迎え記念事業を行う
 4月 [大学] スポーツ健康科学研究科開設、
 グローバル・スタディーズ研究科開設
 [中高] 中学校・高等学校統合
 [大学] グローバル・コミュニケーション学部開設
 同志社国際学院開校
 2012(平成24)年4月 [大学] 脳科学研究科開設
 工学研究科を理工学研究科と改称
 [女子大学] 薬学研究科開設
 2013(平成25)年4月 [大学] グローバル地域文化学部開設
 [女子大学] 音楽専攻科開設

2013年4月現在